

上越市における市民生活の情報化に関する調査報告
書

平成 12 年 11 月

上越市創造行政研究所

はじめに

本報告書は、IT(情報技術 Information Technology)の進展が著しい今日、上越市における市民生活の情報化の実態を把握し、今後行政が取り組むべき課題を検討するため、市民を対象として行った「市民生活の情報化に関する調査」のアンケート集計結果をまとめたものです。

調査は、本年9月19日から10月16日にかけて市民3,000名を対象に郵送による配布回収を行い、1,335名の方から回答を得ました。回収率は44.5%で、この種の調査としてはきわめて高い回収率となり、市民の関心の高さを裏付けるものとなりました。

調査の結果、上越市では約半数の家庭がパソコンを所有し、市民のうち3人に1人はパソコンを、4人に1人はインターネットを利用しているなど、ITが市民生活の中に確実に浸透してきている現状が明らかとなりました。

また、一方では、ごく近い将来10~30代の8割以上の方がインターネットを利用すると予測されるのに対して、60代以上の世代では2割程度しか利用しないことが予測されるなど、しばらくの間は世代間でITの利用状況に格差が生じる状況も予想することができました。

しかし、中・長期的に将来を展望すると、ITの利用は確実に日常生活の一部となっていくことが予測されることから、これからのIT化社会で行政は何をすべきか、また行政自身がどのように活用していくべきかを本格的に検討を行う時期が訪れていると考えられます。

本調査ではあわせて、上越市が現在開設しているホームページに対する意見や感想、今後の情報提供のあり方についての意向、さらには当市も今後推進していくことになる「電子市役所」についての認識や期待について、多くの市民の方から貴重な意見を伺うこともできました。

本市では、本調査の結果を活用し、市民生活のさらなる向上に向けた取組みを推進してまいります。

平成12年11月

上越市創造行政研究所

目 次

1. 調査概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査内容	1
1-3 調査対象	1
1-4 調査方法と実施経過	2
1-5 回収状況と回答者の内訳	2
1-6 集計方法	4
2. 調査結果	5
2-1 パソコンの利用状況	5
2-2 パソコンの所有状況	9
2-3 携帯電話の所有・利用状況	12
2-4 インターネットの利用状況	16
2-5 上越市のホームページの利用状況	21
2-6 行政から市民への情報提供のあり方	25
2-7 IT・電子政府に関する認知度と期待	27
3. 調査結果のまとめ	34
3-1 市民生活の情報化の現状と将来の可能性	34
3-2 行政から市民への情報提供についての課題	39
3-3 電子自治体推進にあたっての課題	39
< 付属資料 >	
付1 アンケート調査票	41
付2 市民からの自由回答	45
2-1 電子政府について(質問 7-4)	45
2-2 情報化社会・ITについて(質問 7-5)	51

< 本 編 >

1-1 調査目的

当調査の実施の目的は、次の三つである。

- (1) 市民生活の情報化の実態を把握し、今後行政が取り組むべき課題の検討資料とする。
- (2) IT化時代における行政から市民への情報提供について、市民の意向を調べる。
- (3) 電子自治体への取組みに向けて、市民の認知度や意向を知る。

1-2 調査内容

当調査では先の目的を踏まえ、次の三つの事項について市民へアンケート調査を行った。

- (1) 市民生活における情報化の実態
 - ・パソコンの利用・所有状況
 - ・携帯電話の所有・利用状況
 - ・インターネットの利用状況
- (2) 市からの情報伝達方法
 - ・上越市のホームページの利用(閲覧)状況
 - ・市からの情報伝達方法についての市民意向
- (3) 「IT」や「電子政府(電子自治体)」に関する市民の認知や意向
 - ・言葉の認知度
 - ・電子政府・電子自治体への期待
 - ・情報化社会・ITについての意見

1-3 調査対象

(1) 調査対象

15才～79才の上越市民を対象に、下表の年齢区分で総数3,000名を抽出。

(抽出率:約2.8%)

※人口及び年齢は平成12年8月31日現在

(2) 対象者の抽出状況

- ・住民基本台帳より年齢区分別に無作為抽出。
- ・対象者数は男女同数とし、それぞれ年齢区分別に人口比率に応じて算出した。

図表1 対象者の内訳

年代	人口			対象者数			抽出率		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
10代	3,954	3,895	7,849	113	108	221	2.8%	2.8%	2.8%
20代	8,901	8,226	17,127	254	227	481	2.8%	2.8%	2.8%
30代	8,570	7,943	16,513	244	220	464	2.8%	2.8%	2.8%
40代	9,045	8,900	17,945	258	246	504	2.8%	2.8%	2.8%
50代	9,768	9,668	19,436	278	268	546	2.8%	2.8%	2.8%
60代	7,482	8,342	15,824	213	231	444	2.8%	2.8%	2.8%
70代	4,925	7,218	12,143	140	200	340	2.8%	2.8%	2.8%
合計	52,645	54,192	106,837	1,500	1,500	3,000	2.8%	2.8%	2.8%

1-4 調査方法と実施経過

(1) 調査方法

無作為抽出した対象者に郵送で調査票を配布し、郵送で回収。

(2) 実施経過

① 調査票配布(郵便発送)

9月19日(火)

② 調査票回収

9月19日(火) ~ 10月16日(月)

③ 集計結果中間報告

10月6日到着分までを中間集約し、市民セミナー「ITで変わる私たちの暮らし」
(10月13日実施)にて一部発表。

④ 最終集計

10月16日到着分までの1,335票を集計。

1-5 回収状況と回答者の内訳

(1) 回収状況

全体の回収率は44.5%で、これは無作為抽出の個人を対象とした類似調査と比較しても高い値といえ、調査のテーマである「情報化」に対する市民の関心の高さをうかがうことができた。

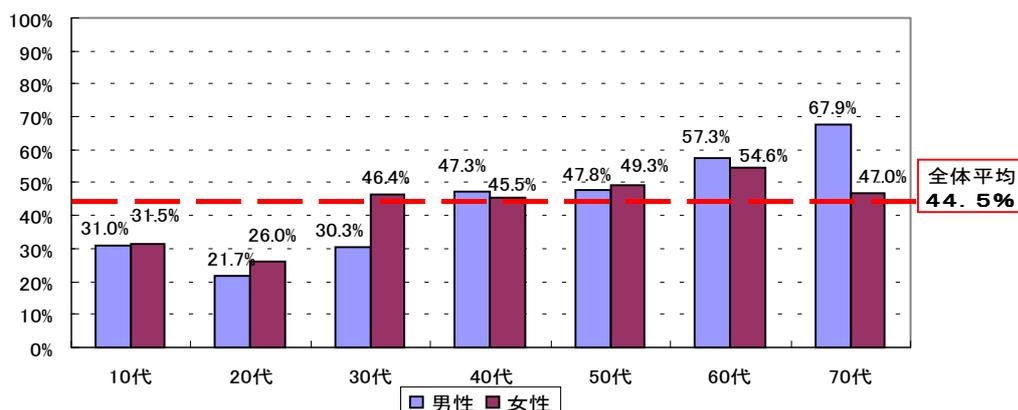
年代別の回収率では、70代の57.1%を最高に比較的高い世代が高く、若い世代が低かった。ITについて関心が高いと予想された20代の回収率は23.9%と、40代以上の年代の半分以下の割合で、最も低い結果となった。

男女別では、概ね男女同じ水準だが、30代と70代では男女の回収率に大きな開きが出た。

図表2 回収状況と回収率

年代	対象者数			回答者数				構成比	回収率		
	男性	女性	計	男性	女性	無回答	計		男性	女性	計
10代	113	108	221	35	34	0	69	5.2%	31.0%	31.5%	31.2%
20代	254	227	481	55	59	1	115	8.6%	21.7%	26.0%	23.9%
30代	244	220	464	74	102	1	177	13.3%	30.3%	46.4%	38.2%
40代	258	246	504	122	112	1	235	17.6%	47.3%	45.5%	46.6%
50代	278	268	546	133	132	1	266	19.9%	47.8%	49.3%	48.7%
60代	213	231	444	122	126	5	253	19.0%	57.3%	54.6%	57.0%
70代	140	200	340	95	94	5	194	14.5%	67.9%	47.0%	57.1%
不明	—	—	—	0	4	22	26	2.0%	—	—	—
合計	1,500	1,500	3,000	636	663	36	1,335	100.0%	42.4%	44.2%	44.5%

図表3 年代別・男女別回収率

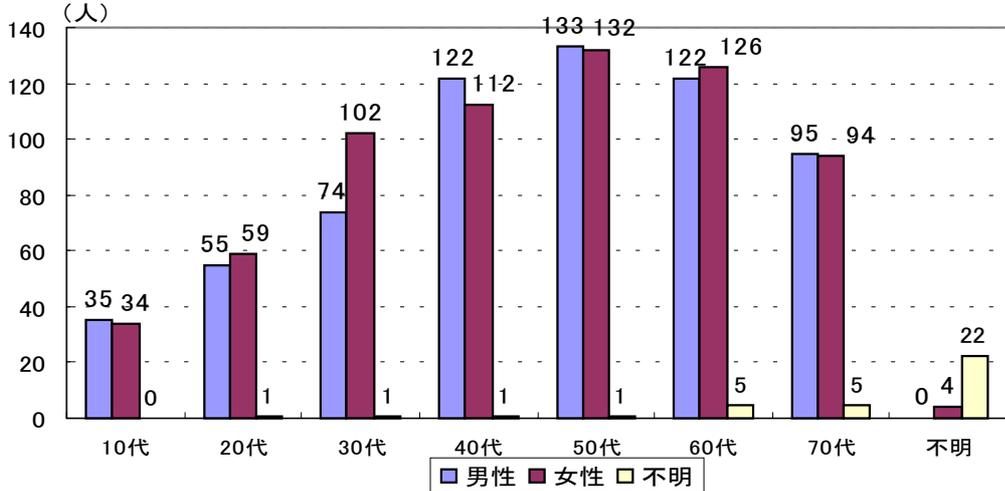


(2)回答者の内訳

① 年代別・男女別

回答者の年代別人数は先の回収率のとおり、40代以上の年代が人口比率に比べて多く、20代、30代がやや少ない結果となった。

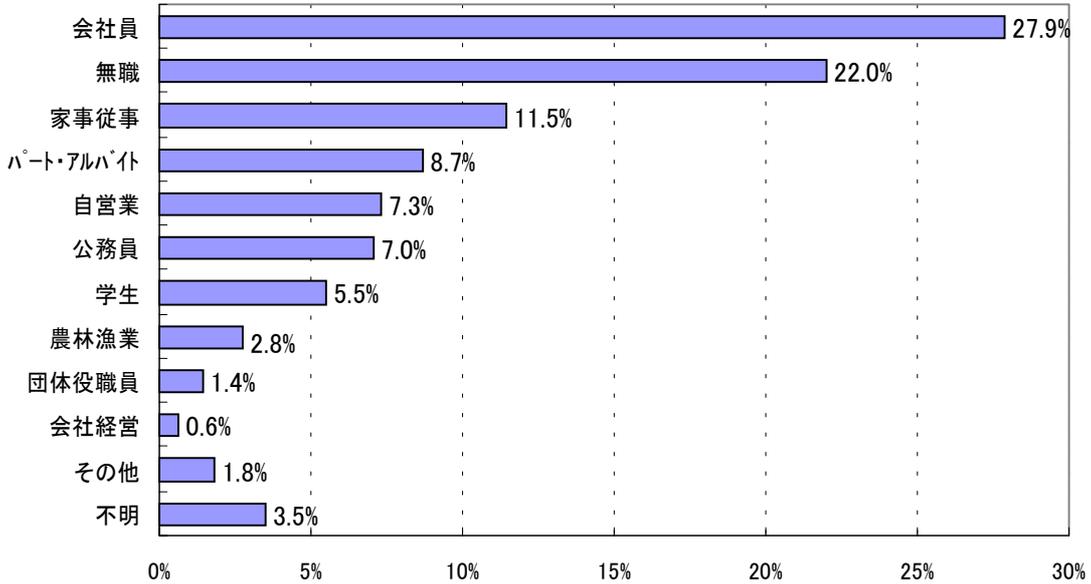
図表4 回答者内訳(年代別・男女別実数)



② 職業別

回答者の職業は、会社員が27.9%、無職が22.0%とこの二つがとりわけ多く、続いて家事従事11.5%、パート・アルバイト8.7%、自営業7.3%、公務員7.0%、学生5.5%という結果となった。

図表5 回答者内訳(職業別)

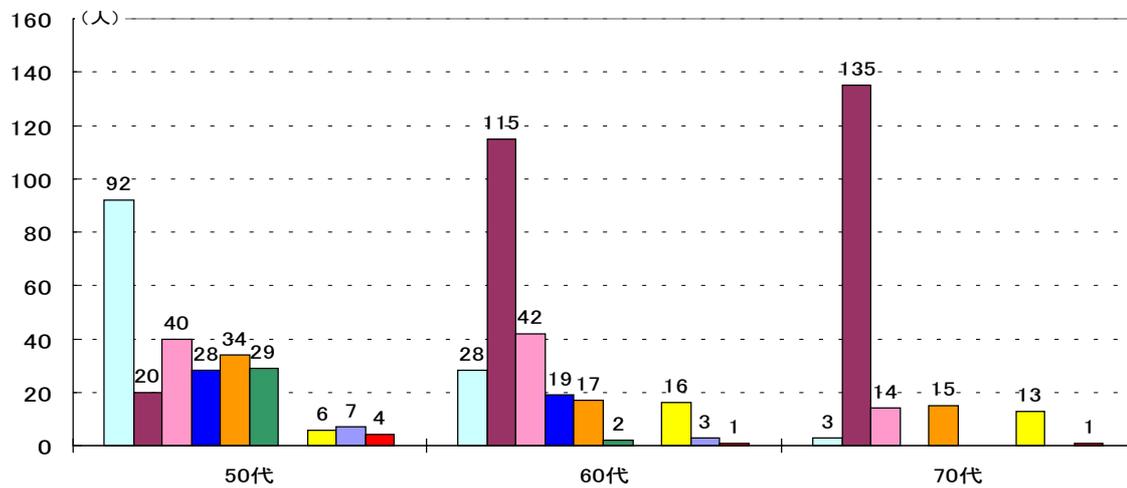
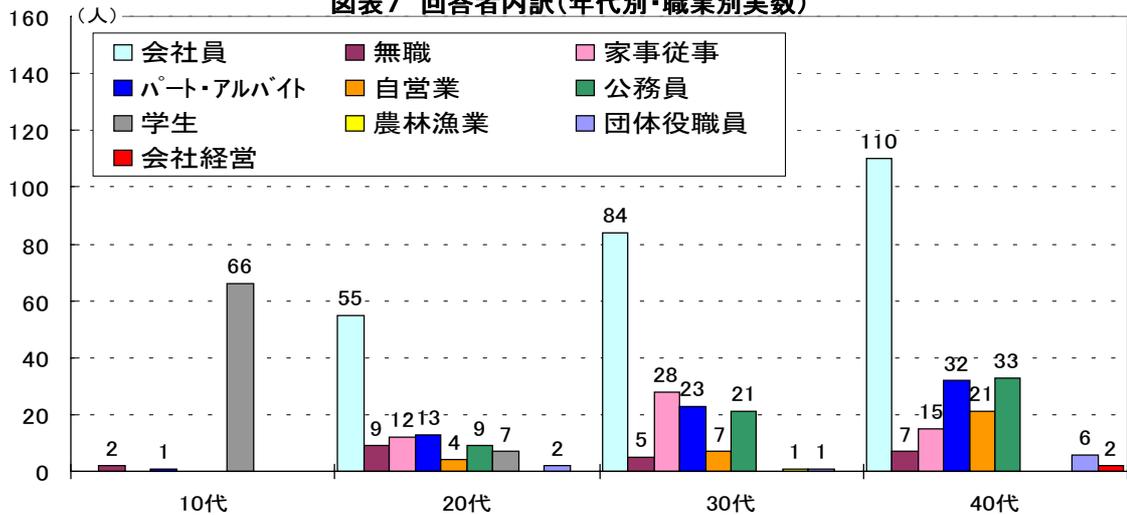


図表6 回答者内訳(年代別・職業別実数)

年代	会社員	無職	家事従事	パート・アルバイト	自営業	公務員	学生	農林漁業	団体役職員	会社経営	その他	不明	合計
10代		2		1			66						69
20代	55	9	12	13	4	9	7		2		2	2	115
30代	84	5	28	23	7	21		1	1		3	4	177
40代	110	7	15	32	21	33			6	2	6	3	235
50代	92	20	40	28	34	29		6	7	4	2	4	266
60代	28	115	42	19	17	2		16	3	1	6	4	253
70代	3	135	14		15			13		1	5	8	194
不明		1	2					1				22	26
合計	372	294	153	116	98	94	73	37	19	8	24	47	1,335

回答者を年代別・職業別にみると10代の「学生」、20～50代の「会社員」、60～70代の「無職」が多くなっている。

図表7 回答者内訳(年代別・職業別実数)

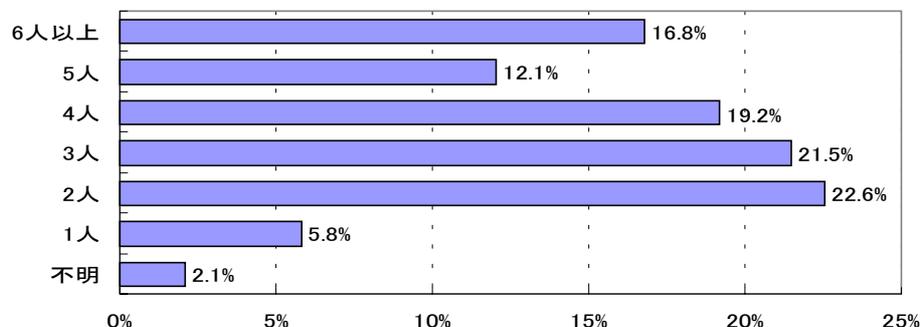


③ 同居家族人数

回答者本人を含めた同居家族の人数では、「2人」が22.6%と最も多く、次いで「3人」(21.5%)、「4人」(19.2%)の順となっている。「1人」は5.8%と最も少なかった。

1世帯あたりの同居家族人数の平均は、約3.6人であった。(6人以上は6人として計算)

図表8 回答者内訳(同居家族人数別)



1-6 集計方法

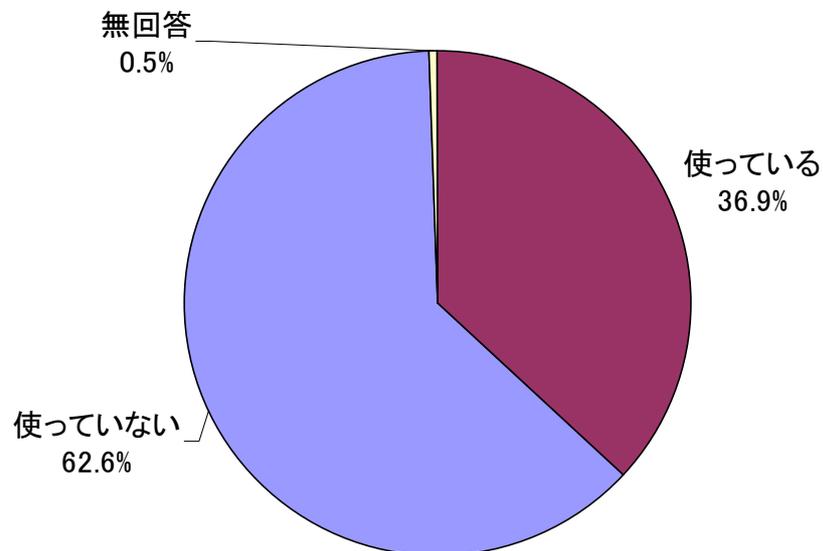
当調査の集計にあたっては、性別・年代・職業・同居家族人数といった回答者の属性により特別な補正は行わず、全回答者の回答を集計することとした。

2-1 パソコンの利用状況

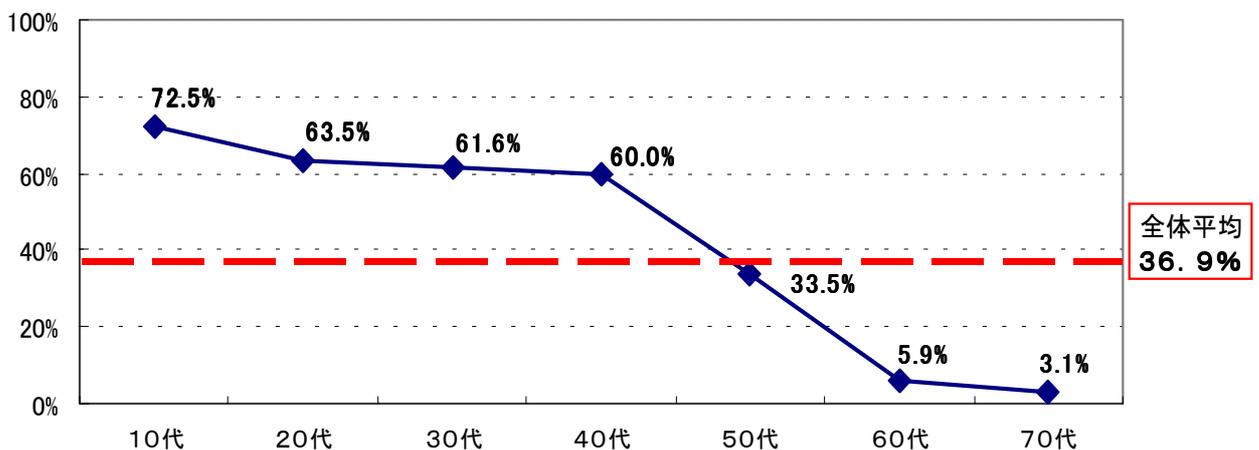
質問 1-1:あなたは現在パソコンを使っていますか。

- ・ 上越市民のパソコン利用率は、全体で**36.9%**となっている。
- ・ 年代別では、10代の72.5%が最も高く、70代の3.1%が最も低い。
- ・ 年代が高くなるにつれて利用率が低下する傾向にあるが、50代になると急激に低下し、60代以上では著しく低い数値となっている。
- ・ 50代以上から全体平均値を下回っている。

図表9 上越市民のパソコン利用率

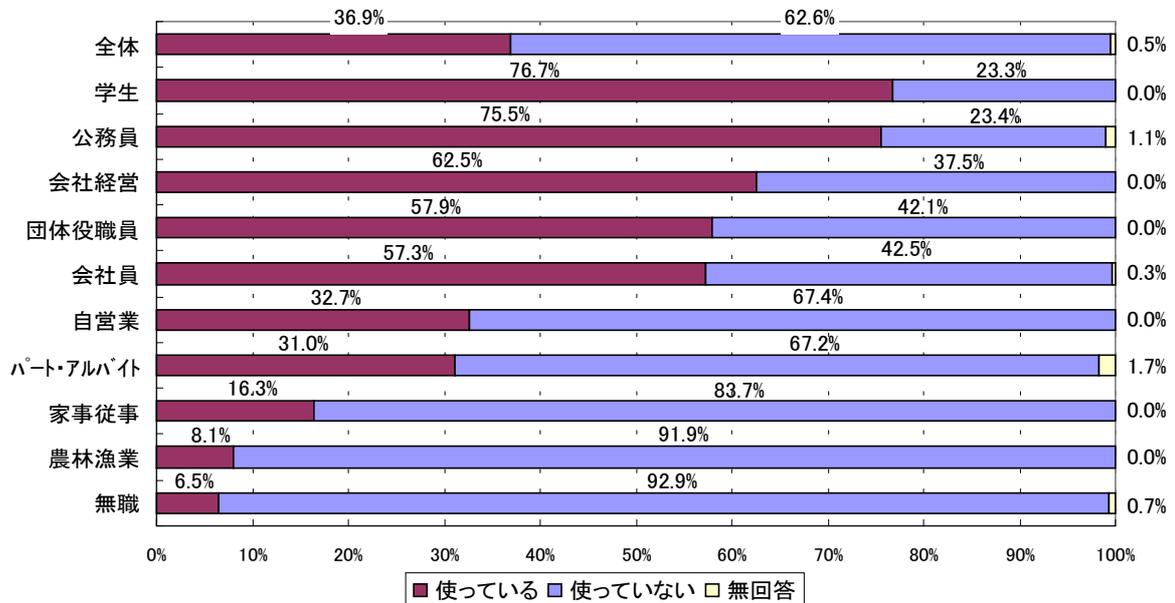


図表10 年代別パソコン利用率



- ・ 職業別にみると、「学生」が76.7%と最も高く、「公務員」も75.5%と同水準の高さを示している。また、その他の平均値(36.9%)以上の職業には、「会社経営」「団体役員」「会社員」といった事務所などに勤務する職業がみられる。
- ・ 一方低い方では、「無職」が6.5%と最も低く、次いで「農林漁業」が8.1%、「家事従事」が16.3%と比較的家庭内にいることが多い職業がみられる。

図表11 職業別パソコン利用率



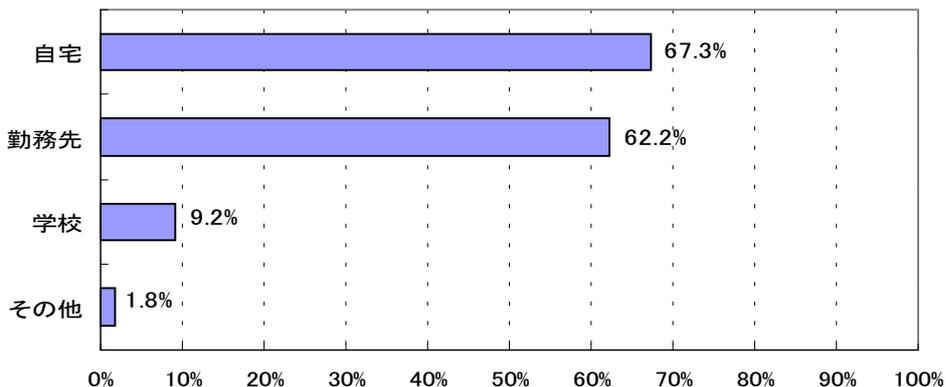
【考察】

- ・ 年代別と職業別での利用率を合わせてみると、50代から利用率が大きく低下し、さらに60代以上で著しく低い数値となっているのは、50代までは職場においてパソコンを利用する機会があるが、定年以降の世代にはその機会が少ないことによるものと思われる。
- ・ 10代の利用率の高さは、学生の学校での利用が要因と思われる。

質問 1-2:どこで使っていますか。(複数回答)

- ・ パソコンの利用場所は「自宅」の67.3%が最も高く、次いで「勤務先」がほぼ同水準の62.2%となっている。「自宅」が「勤務先」を上回っていることは、家庭での利用の広がりを示している。
- ・ その他の回答には、「友人・知人の家」や「インターネットカフェ」「パソコン教室」「車中」がみられた。

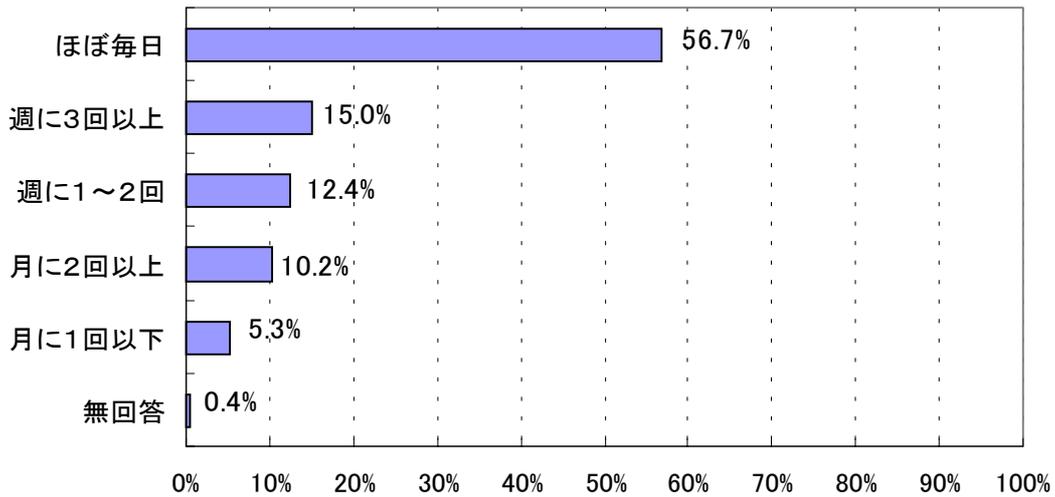
図表12 パソコン利用場所 (複数回答)



質問 1-3:平均してどのくらいの頻度で利用していますか。

- ・ パソコンの利用頻度は、「ほぼ毎日」が56.7%と最も多く、使用頻度が高い順に割合が多くなっている。
- ・ 質問 1-1 での市民全体の利用率(36.9%)と合わせてみると、上越市民の20.9%がほぼ毎日パソコンを利用しているといえる。

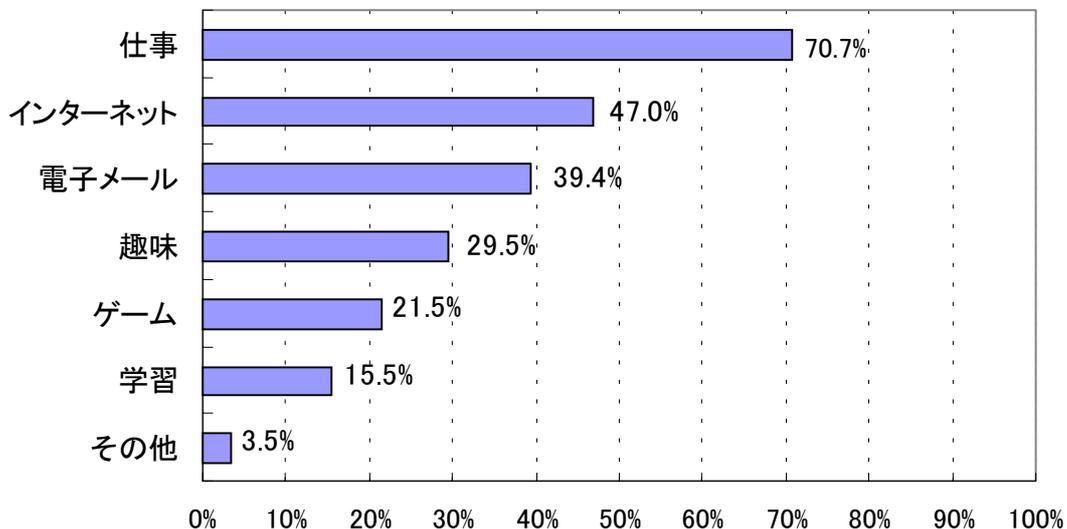
図表13 パソコン利用頻度



質問 1-4:どのようなことにお使いですか。(複数回答)

- ・ 個人でパソコンを利用する目的は、「仕事」が70.7%と最も高く、次いで「インターネット」が47.0%、「電子メール」が39.4%の順となっている。
- ・ その他の回答には、「町内会などの文書作成」「ボランティア活動」といった勤務先以外の団体に関する事務や、「家計簿」「はがき作成」といった家庭内での作業への利用がみられる。

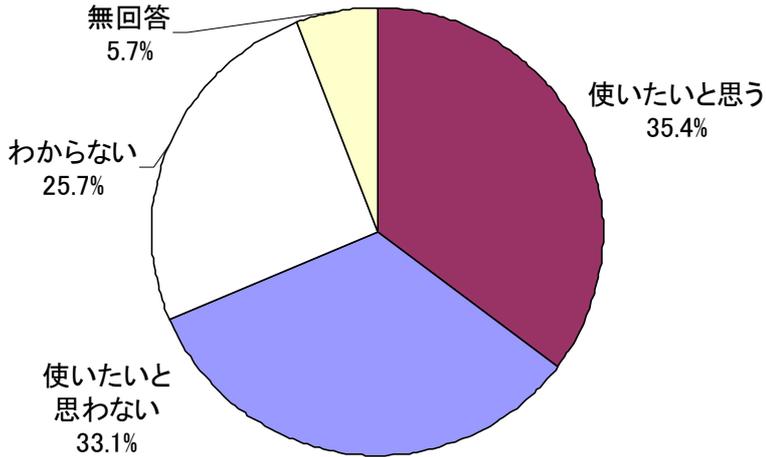
図表14 パソコン利用目的【個人】(複数回答)



質問 1-5: (現在パソコンを利用していない回答者に対して)
これから使いたいと思いますか。

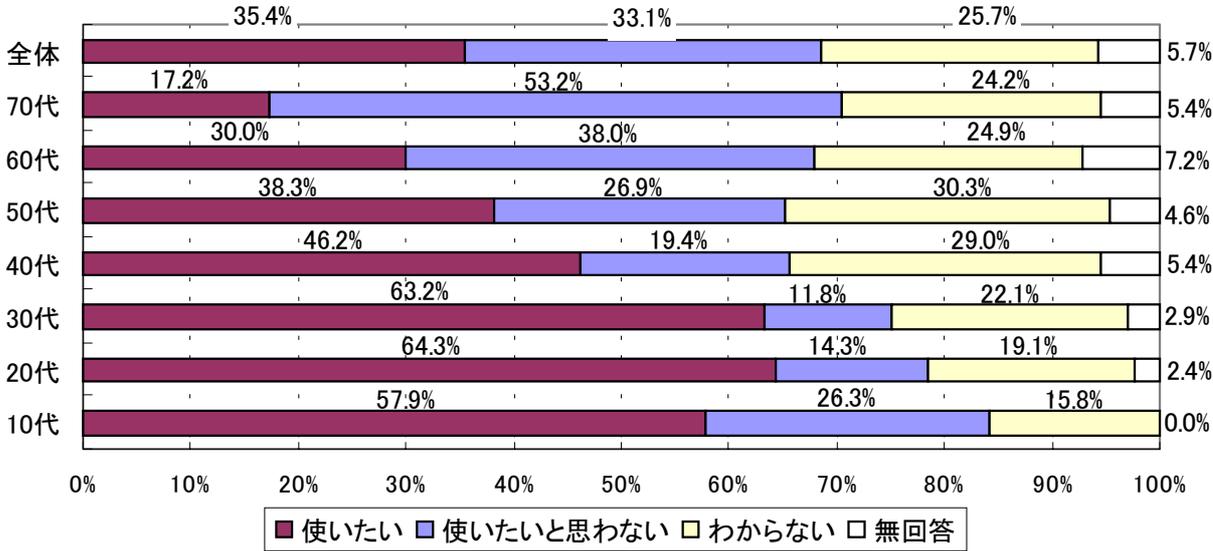
- ・ 現在パソコンを利用していない市民のうち35.4%はこれから利用したいという意向を示しており、「使いたいと思わない」の33.1%をわずかに上回っている。また、「わからない」という回答も25.7%にのぼっており、回答はほぼ三分されている。

図表15 パソコン利用願望



- ・ 上の結果を年代別にみても、「使いたい」という意向は、20代の64.3%が最も高く、30代も63.2%とほぼ同じ水準を示している。40代以上の年代では年代が高くなるにつれて利用願望が低くなる傾向があり、70代は17.2%と最も低い。60代以上の年代から平均値の35.4%を下回っている。
- ・ 一方「使いたいと思わない」という回答は70代の53.2%が最も高く、30代の11.8%が最も低い。10代の26.3%は50代の26.9%とほぼ同じ水準となっている。
- ・ 「わからない」という回答は、40代と50代に多くみられる。

図表16 年代別パソコン利用願望

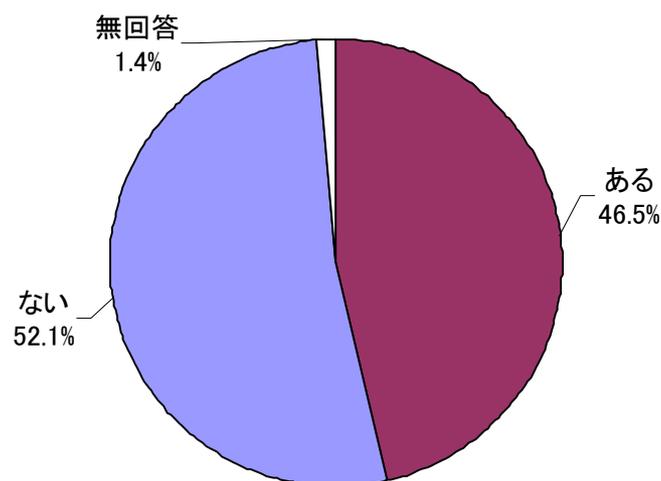


2-2 パソコンの所有状況

質問 2-1:あなたの自宅にパソコンがありますか。

- 上越市のパソコン世帯普及率は**46.5%**となっており、パソコンがない世帯の52.1%をわずかに下回っている。上越市では世帯の約半分がパソコンを所有していることになる。

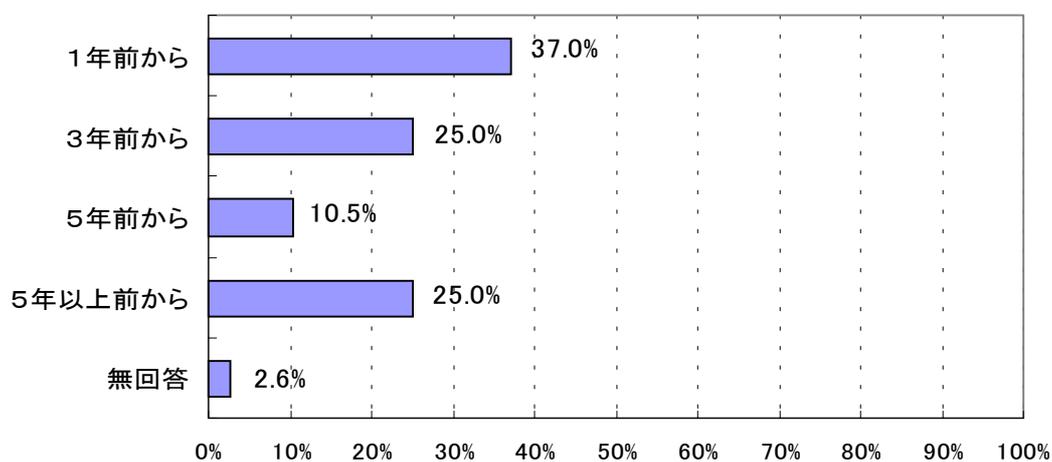
図表17 上越市のパソコン世帯普及率



質問 2-2:いつからありますか。

- パソコンの所有開始時期は「1年前から」が37.0%と最も多く、次いで「3年前から」と「5年以上前から」が共に25.0%と多くなっている。
- 下表からは、年々パソコンを持ち始める人が増えてきており、特にこの1年間での伸び率が大きいことがわかる。

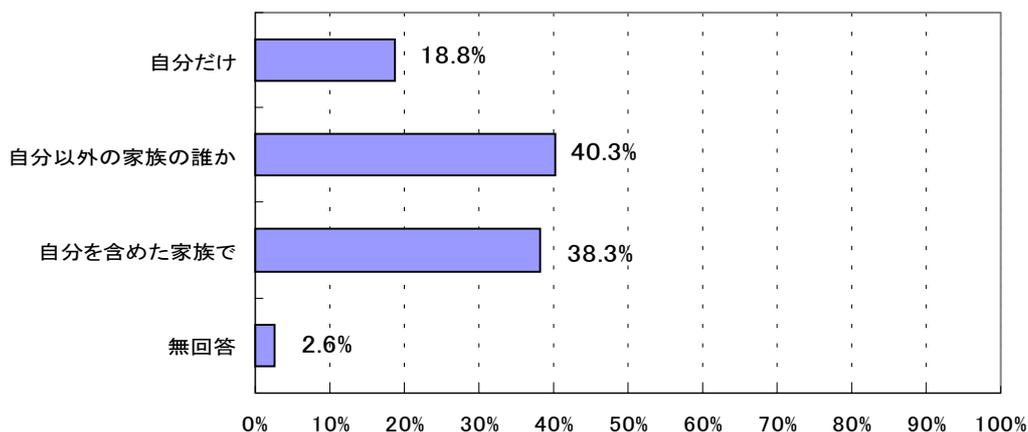
図表18 パソコン所有開始時期



質問 2-3: 誰が使っていますか。

- ・ 「自分以外の家族の誰か」という回答が40.3%と最も多くなっている。次いで「自分を含めた家族で」が38.3%とほぼ同水準で、「自分だけ」は18.8%と最も低い。設問の都合上完全な割合はわからないが、パソコンを家族が共同で利用している形態も多いものと思われる。

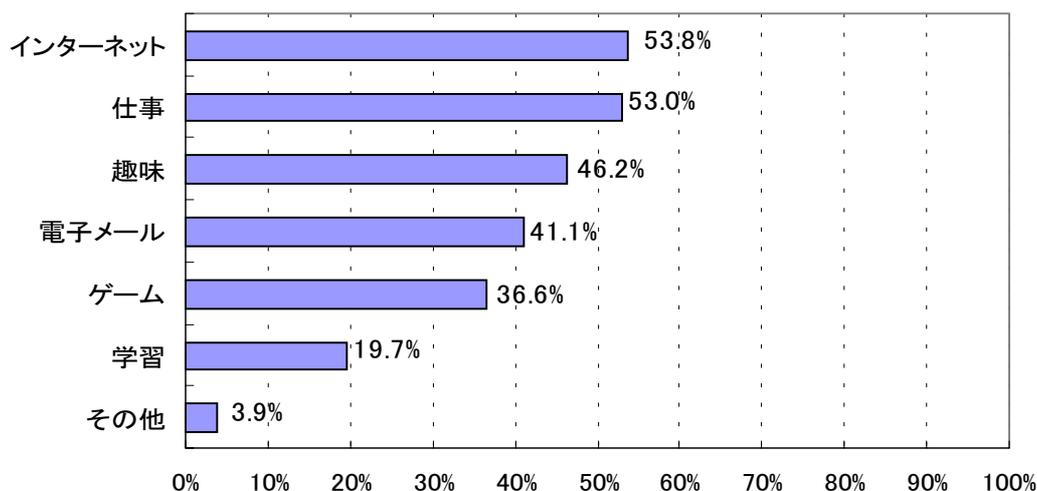
図表19 世帯におけるパソコン利用形態



質問 2-4: 自宅のパソコンをどのようなことにお使いですか。(複数回答)

- ・ 家庭におけるパソコンの利用目的は、「インターネット」が53.8%と最も多く、次に「仕事」が53.0%とほぼ同水準となっている。
- ・ その他の回答には、個人利用の場合と同様に「町内会などの文書作成」といった勤務先以外の団体に関する事務や、「家計簿」「はがき作成」といった家庭内での作業への利用がみられる。

図表20 パソコン利用目的【世帯】(複数回答)



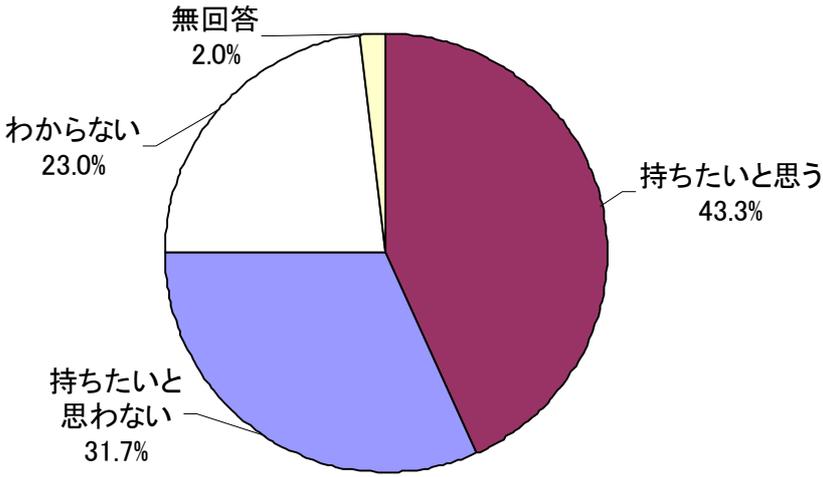
【考察】

- ・ パソコンの利用目的を個人(質問 1-4)と世帯の場合で比較すると、「インターネット」「趣味」「ゲーム」といった娯楽性の高いものや「学習」については、家庭利用の場合が高い割合となっている。

質問 2-5: (家庭にパソコンが無い回答者に対して)
これから持ちたいと思いますか。

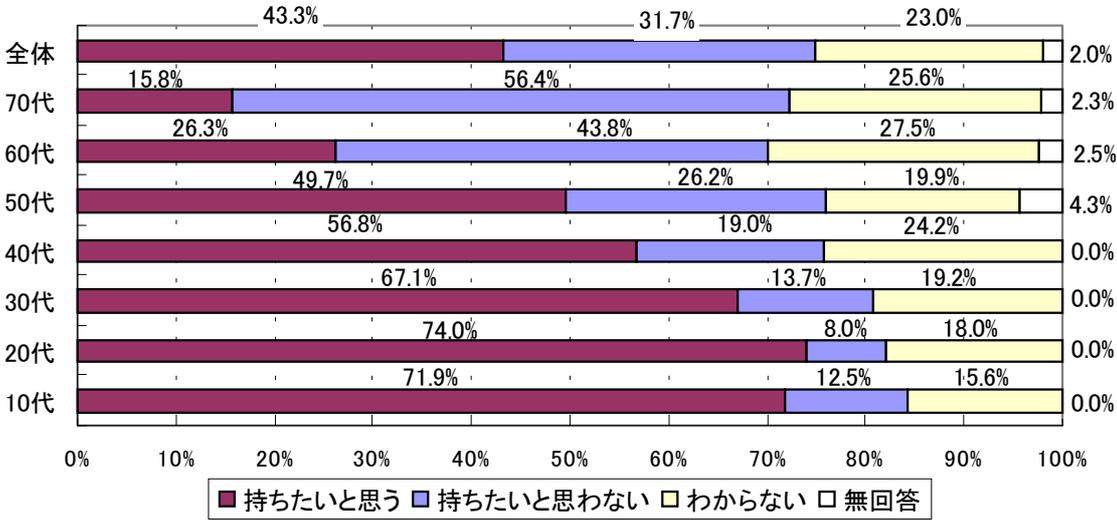
- 家庭にパソコンのない世帯のうち、43.3%が今後パソコンを持ちたいという意向を示しており、「持ちたいと思わない」の31.7%を上回っている。また、「わからない」という回答も全体の23.0%を占めている。

図表21 世帯におけるパソコン所有願望



- 上の結果を年代別にみると、「持ちたいと思う」という意向は、20代が74.0%と最も高く、10代もほぼ同じ水準を示している。30代以上では、年代が高くなるにつれて保有願望が低くなる傾向があり、60代以上になると著しく低下して平均値を下回り、70代は15.8%と最も低くなっている。
- 一方「持ちたいと思わない」という回答は、70代の56.4%が最も多く、20代の8.0%が最も少ない。
- 「わからない」という回答は、60代と70代に多くみることができる。

図表22 年代別世帯におけるパソコン所有願望

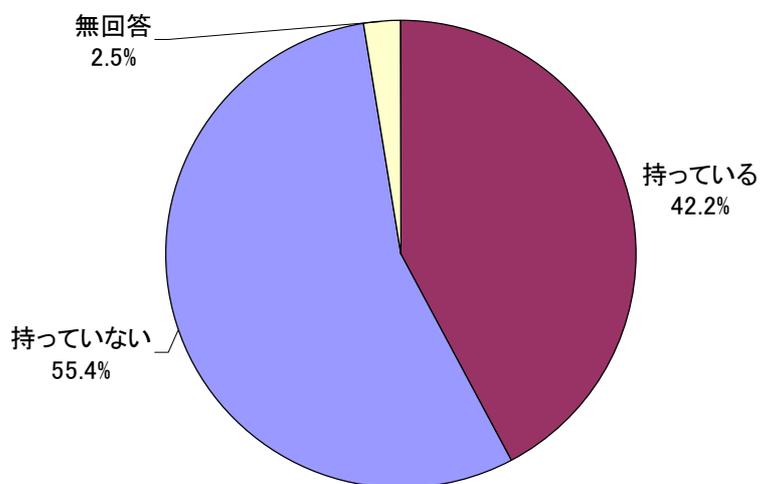


2-3 携帯電話の所有・利用状況

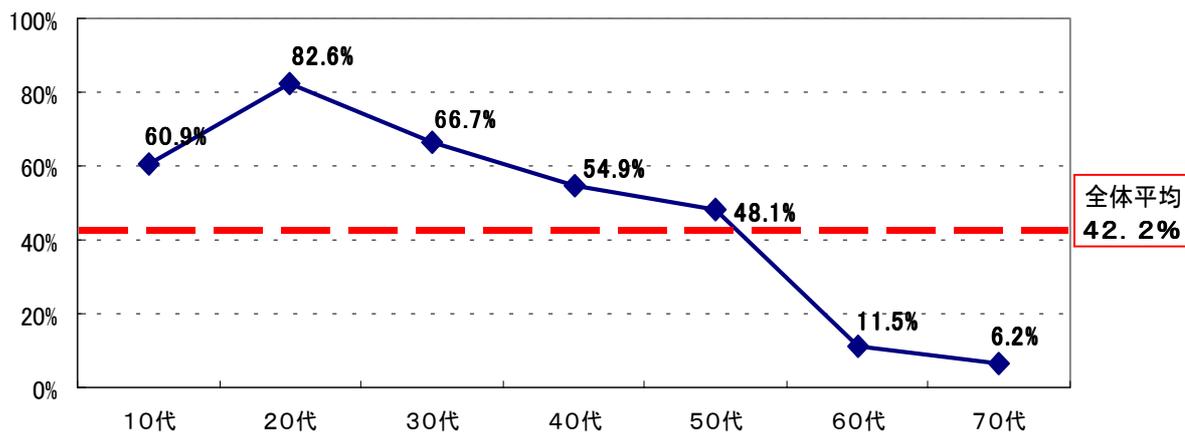
質問 3-1:あなたは携帯電話(PHSを含む)を持っていますか。

- ・ 上越市民の携帯電話所有率は全体で**42.2%**となっている。
- ・ 年代別にみると、20代が82.6%と最も高く、以降年代が進むにつれて低くなり、70代が6.2%と最も低い。
- ・ 10代は60.9%と30代よりも低い値となっている。
- ・ 60代以上は全体平均値を下回っている。

図表23 上越市民の携帯電話所有率

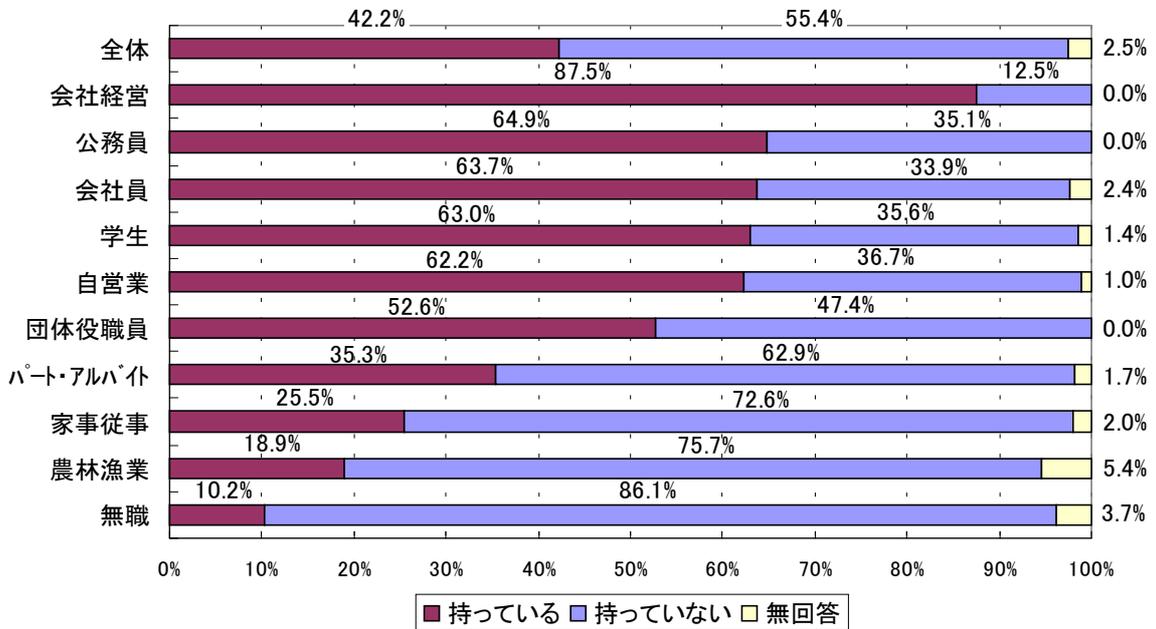


図表24 年代別携帯電話所有率



- ・ 職業別にみると、「会社経営」が87.5%と圧倒的に高く、次いで「公務員」「会社員」「学生」「自営業」の順に6割以上の値を示している。
- ・ 一方、低い方では「無職」が10.2%と最も低く、次いで「農林漁業」が18.9%、「家事従事」が25.5%となっている。

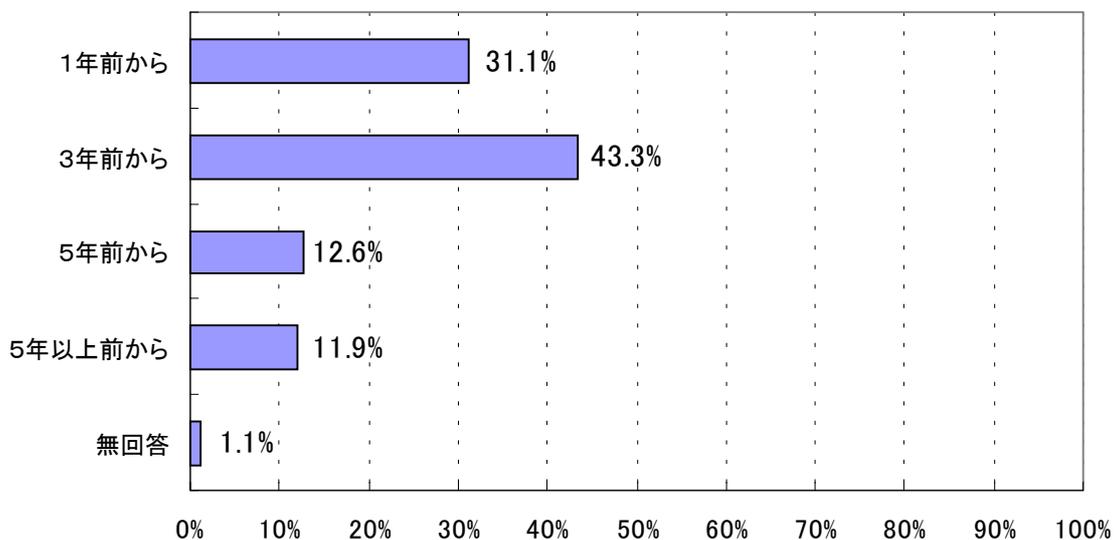
図表25 職業別携帯電話所有率



質問 3-2: いつから持っていますか。

- ・ 携帯電話の所有開始時期は、「3年前から」が43.3%と最も多く、次いで「1年前から」が31.1%となっている。設問の時間間隔を考慮すると、新規加入者の数は増加傾向にあることがわかる。

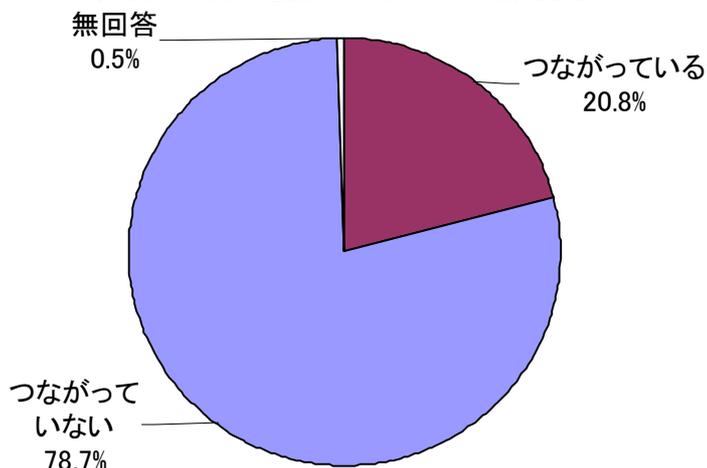
図表26 携帯電話所有開始時期



質問 3-3:あなたの携帯電話はインターネットにつながっていますか。

- ・ 携帯電話のインターネットへの接続状況、すなわちインターネット接続対応機種の有率は、携帯電話所有者の20.8%となっている。
- ・ 質問 3-1 での市民全体の所有率(42.2%)と合わせてみると、上越市民の8.8%の人がインターネット接続対応機種を所有していることになる。

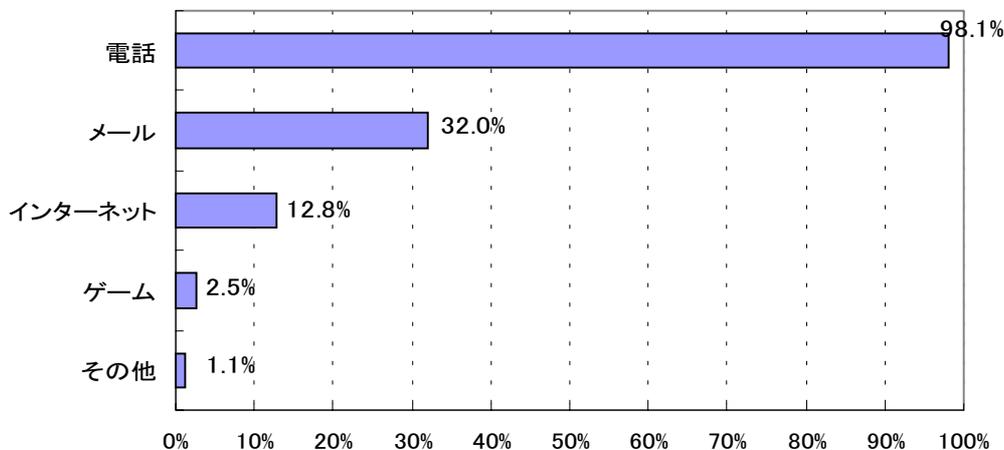
図表27 携帯電話のインターネット接続状況



質問 3-4:携帯電話をどのようなことにお使いですか。(複数回答)

- ・ 携帯電話の利用目的は、文字どおり「電話」が98.1%と最も多く、次いで文字情報を送受信する「メール」機能が32.0%、「インターネット」による情報の受信は12.8%となっている。
- ・ 電話以外の用途について、質問 3-1 での市民全体の所有率(42.2%)と合わせてみると、上越市民の13.5%の人が「メール」でコミュニケーションをとり、5.4%の人が携帯電話でインターネットを利用していることになる。
- ・ その他の回答には、「スケジュール管理」や「アドレス帳」「メモ帳」といったものがみられた。

図表28 携帯電話利用目的 (複数回答)



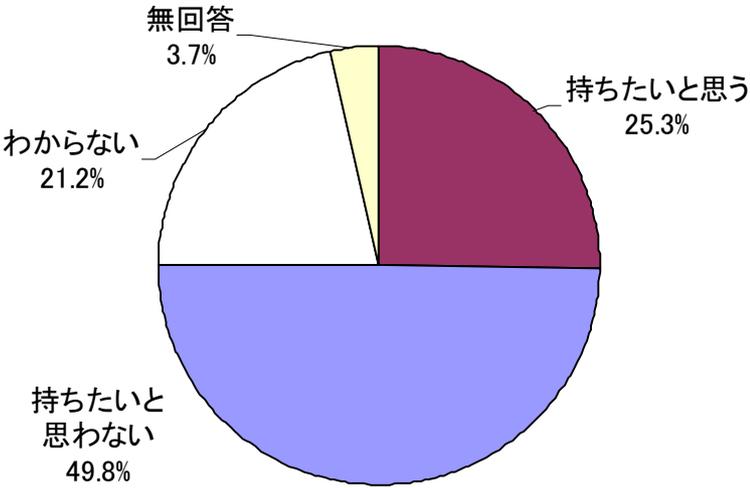
【考察】

- ・ 携帯電話でのインターネットの利用(12.8%)は、質問 3-3 のインターネット接続対応機種の所有率(20.8%)と比較して少ない値となっているが、これはインターネット接続対応機種を所有していても、その機能を利用していない人がいることを示している。

質問 3-5: (携帯電話を所有していない回答者に対して)
これから持ちたいと思いますか。

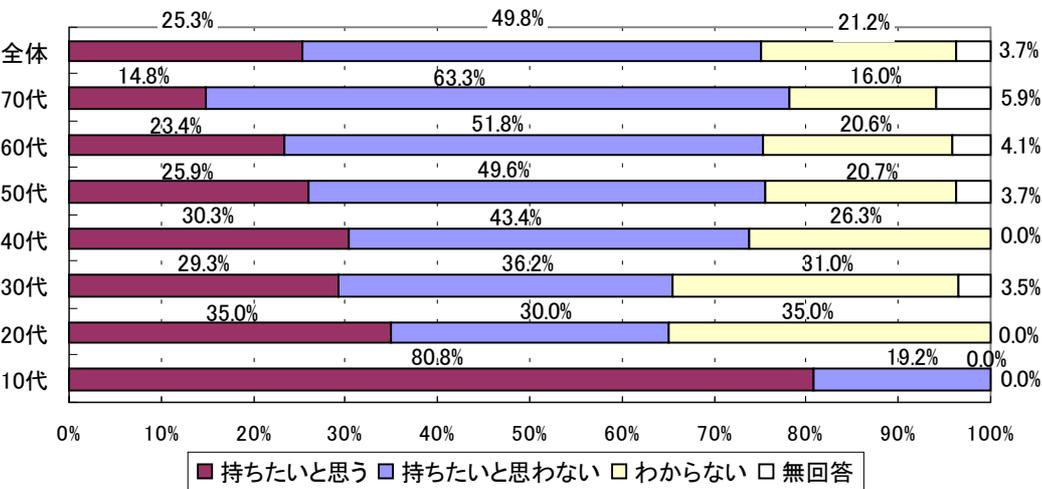
- 携帯電話を所有していない市民のうち、今後所有したいという意向を示しているのは25.3%で、「持ちたいと思わない」の49.8%の約半数となっている。

図表29 携帯電話所有願望



- 上の結果を年代別にみると、「持ちたいと思う」という意向は、10代が80.8%と著しく高く、20代以上は年代が進む(30代は除く)につれて保有願望が低くなる傾向がある。60代以上になると平均値を下回り、70代は14.8%と最も低くなっている。
- 一方「持ちたいと思わない」という回答は70代の63.3%が最も多く、10代の19.2%が最も少ない。
- 20代と30代では、「わからない」という回答が3割を超えているが、これから持つべきかどうか迷っている人が多いものと思われる。

図表30 年齢別携帯電話所有願望

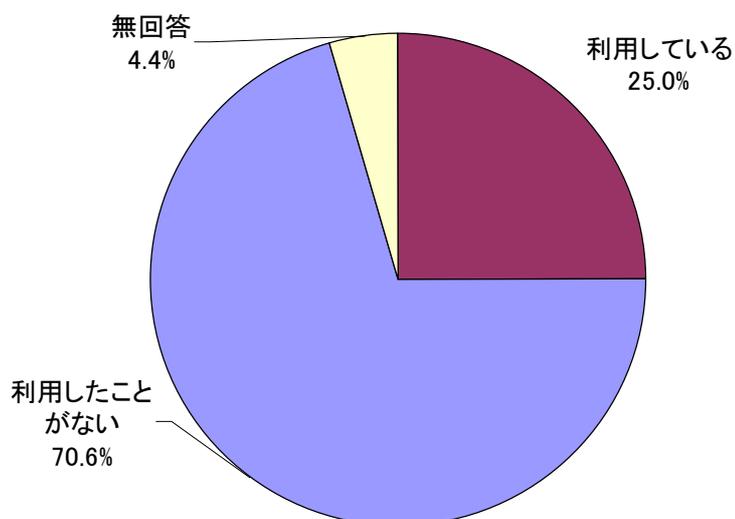


2-4 インターネットの利用状況

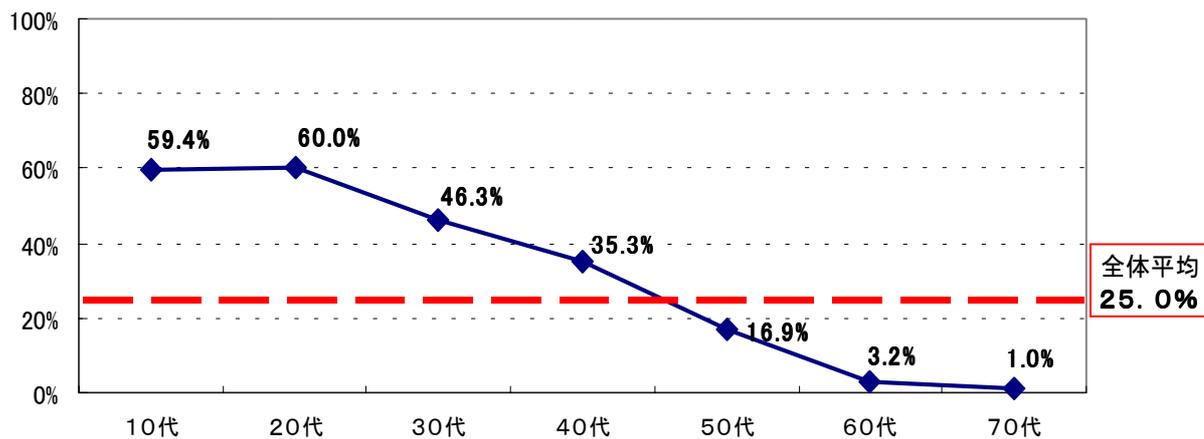
質問 4-1:あなたはインターネットを利用していますか。

- ・ 上越市民のインターネット利用率は、全体で**25.0%**となっている。
- ・ 年代別では、20代の60.0%が最も高く、10代の59.4%もほぼ同水準で、以降年代が高くなるにつれて利用率が低下し、70代では1.0%となっている。
- ・ 50代以上から全体平均値を下回っている。

図表31 上越市民のインターネット利用率

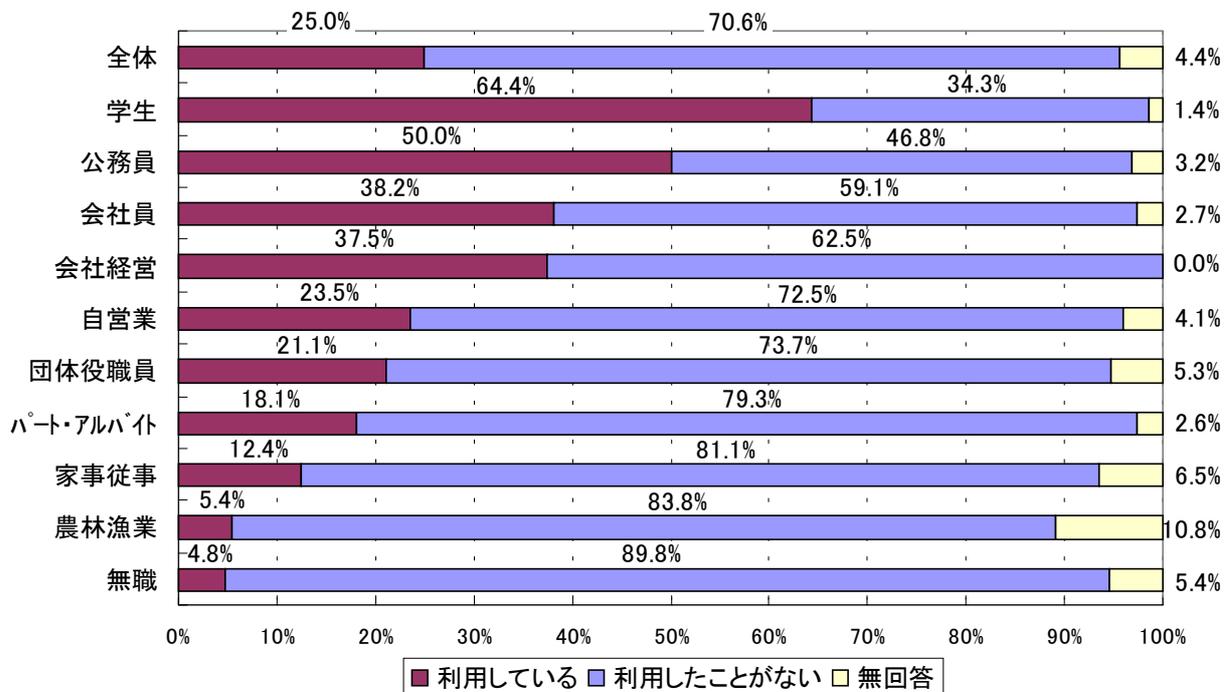


図表32 年代別インターネット利用率



- ・ 職業別にみると、「学生」が64.4%と最も高く、次いで「公務員」が50.0%となっている。
- ・ 平均値(25.0%)以上の職業は、「会社員」「会社経営」といった事務所などに勤務する職業がみられる。
- ・ 一方、低い方では「無職」が4.8%と最も低く、次いで「農林漁業」が5.4%、「家事従事」が12.4%となっており、パソコン利用率(質問 1-1)と同様の職業がみられる。

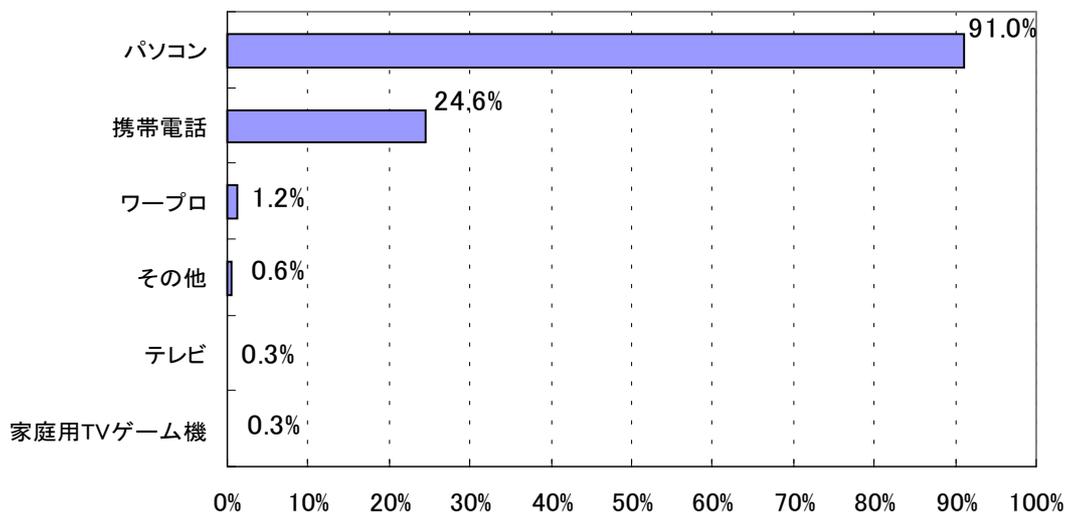
図表33 職業別インターネット利用率



質問 4-2:どのような機器で利用していますか。(複数回答)

- ・ インターネットを利用する手段は「パソコン」が91.0%と圧倒的に多く、次いで「携帯電話」の24.6%となっている。
- ・ 「ワープロ」「テレビ」などの他の機器はそれぞれ1%前後の割合にとどまっている。
- ・ その他の回答としては、「カーナビゲーション」があった。

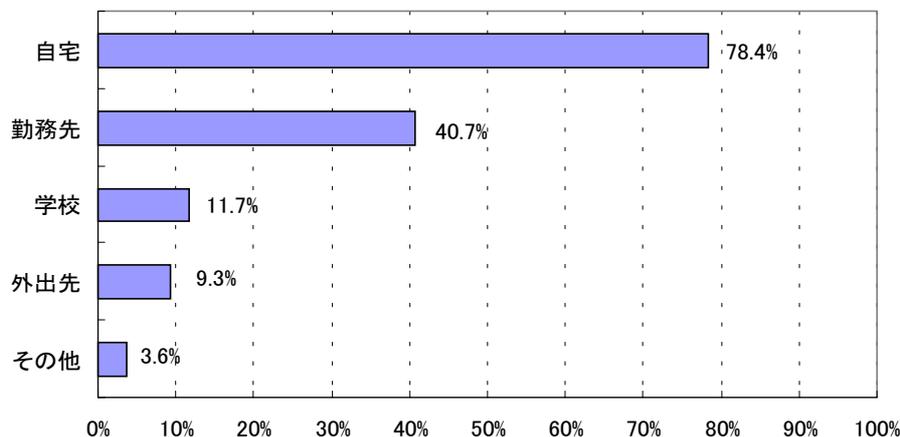
図表34 インターネット利用手段 (複数回答)



質問 4-3:どこで利用していますか。(複数回答)

- ・ インターネットを利用する場所は、「自宅」が78.4%と最も多い。次いで「勤務先」が40.7%、「学校」が11.7%となっている。
- ・ その他の回答には「友人・知人の家」や、携帯端末を利用して「どこでも」という回答がみられた。

図表35 インターネット利用場所 (複数回答)



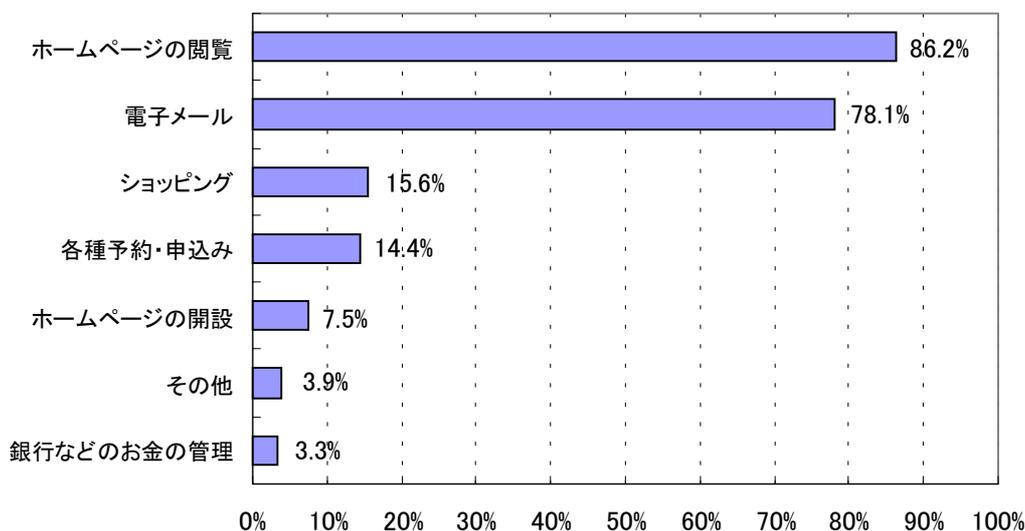
【考察】

- ・ インターネットの利用場所とパソコンの利用場所(質問 1-2)を比較すると、インターネットの場合「自宅」が11.1ポイント高く、「勤務先」が21.5ポイント低くなっている。このことからインターネットは、勤務先での業務上の利用より、家庭で個人的に利用する傾向が強いことがわかる。

質問 4-4:どのようなことにお使いですか。(複数回答)

- ・ インターネットで利用しているサービスは、「ホームページの閲覧」が86.2%と最も多く、「電子メール」の利用も78.1%と並んで多くなっている。
- ・ その他の回答には、「データ処理・管理」などがみられた。

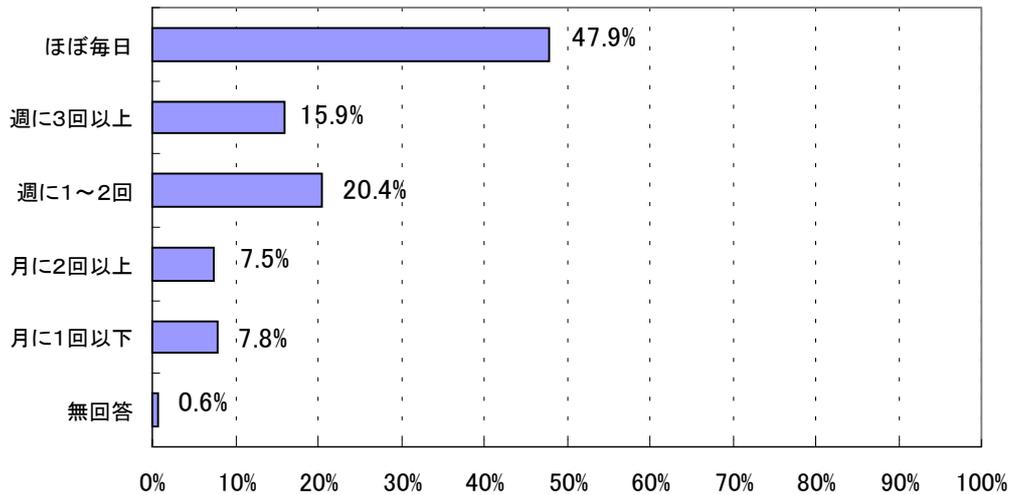
図表36 インターネットで利用しているサービス (複数回答)



質問 4-5: 平均してどのくらいの頻度で利用していますか。

- ・ インターネットを利用する頻度は、「ほぼ毎日」が47.9%と最も多い。次いで「週に1～2回」が20.4%、「週に3回以上」が15.9%となっている。
- ・ 質問 4-1 の上越市全体での利用率(25.0%)と合わせてみると、上越市民の12.0%がほぼ毎日インターネットを利用しているといえる。

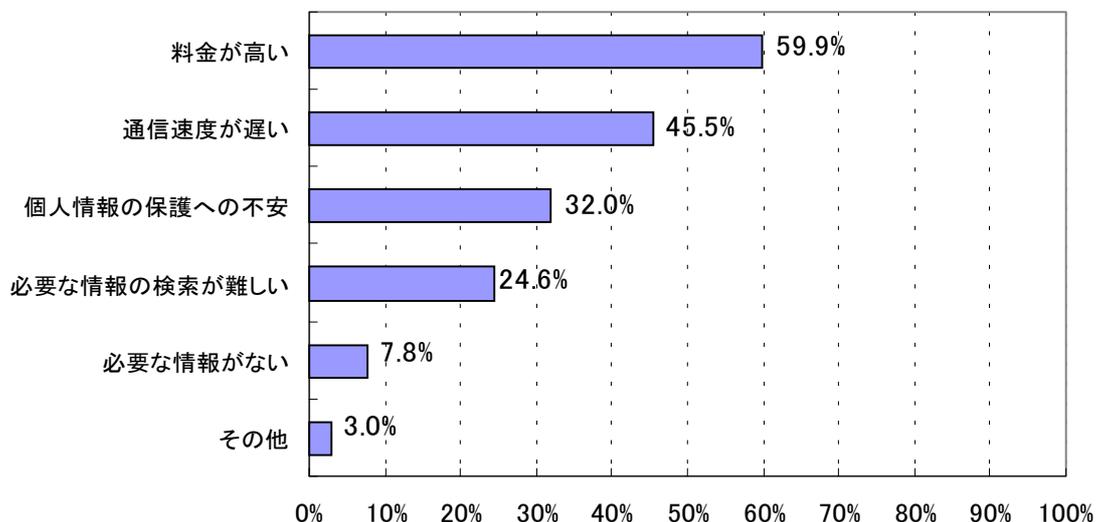
図表37 インターネット利用頻度



質問 4-6: 使っていて不満や不自由に思うことがありますか。(複数回答)

- ・ インターネットの利用上で不満や不自由を感じる点は、「料金の高さ」が59.9%と最も多く、次いで「通信速度の遅さ」が45.5%となっており、利用環境への不満が高い傾向にある。また、「個人情報の保護」に不安を感じている人は32.0%となっている。「必要な情報がない」という内容面への不満は、7.8%と比較的少ない。
- ・ その他の回答では、「ウイルスの感染」「機械の性能」「納得いかない高額な情報料(ダイヤルQ2)の請求」「市内プロバイダーの少なさ」への不満があった。

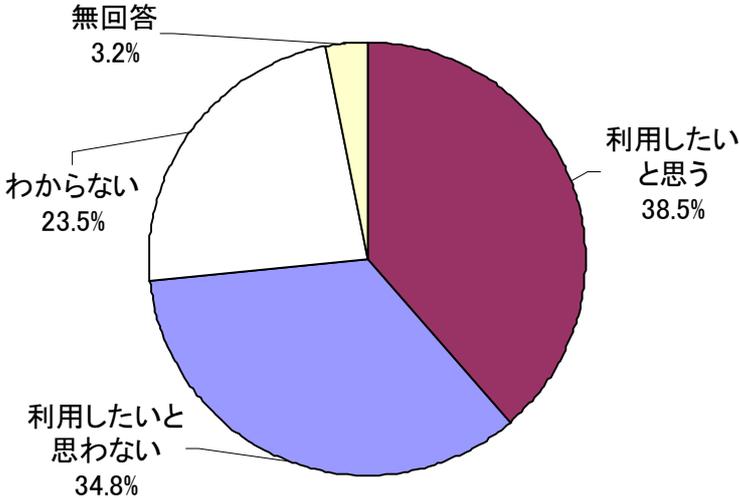
図表38 インターネットの利用上で不満や不自由を感じる点 (複数回答)



質問 4-7: (現在インターネットを利用していない回答者に対して)
 今後利用したいと思いますか。

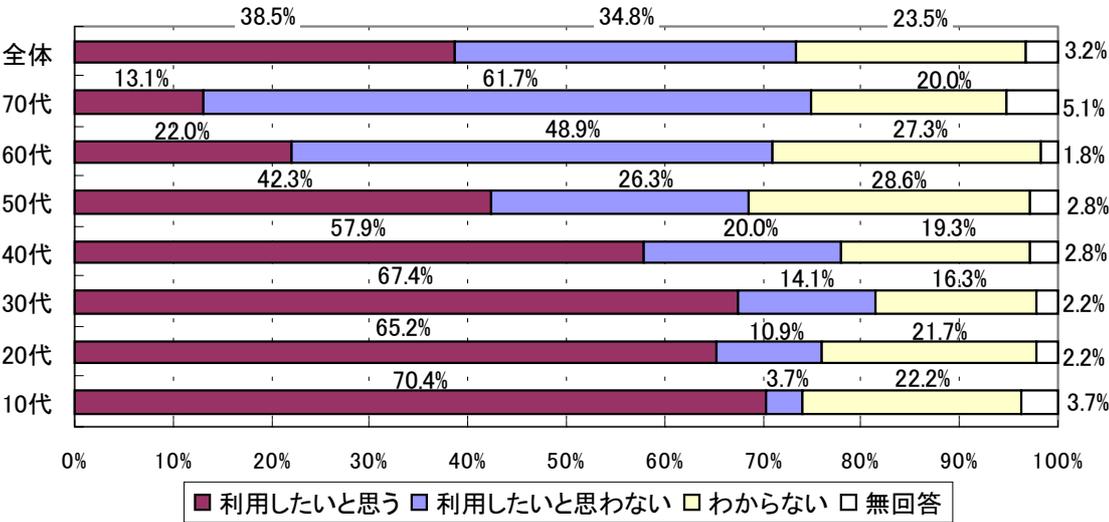
- インターネットを利用していない市民のうち、38.5%が「これから利用したい」という意向をみせており、「利用したいと思わない」の34.8%を若干上回っている。

図表39 インターネット利用願望



- 上の結果を年代別にみると、「利用したいと思う」という意向は10代の70.4%が最も高く、次いで30代の67.4%、20代の65.2%がほぼ同じ水準を示している。40代以上では、年代が進むにつれて利用願望が低くなる傾向にあるが、中でも60代以上になると著しく低下して平均値を下回り、70代は13.1%と最も低くなっている。
- 一方「利用したいと思わない」という回答は70代が61.7%と最も多く、年代が下がるほど低下する傾向がみられ、10代が3.7%と最も少ない。
- 「わからない」という回答は、50代が28.6%と最も多く、60代も27.3%とほぼ同レベルの値を示している。

図表40 年代別インターネット利用願望

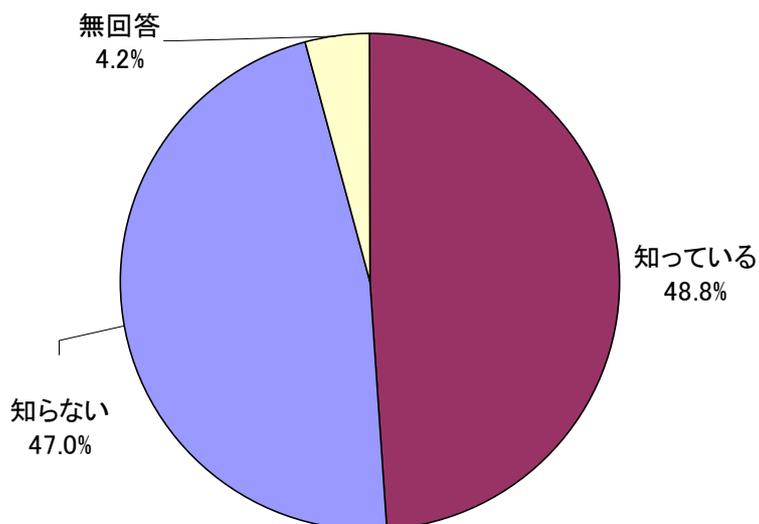


2-5 上越市のホームページの利用状況

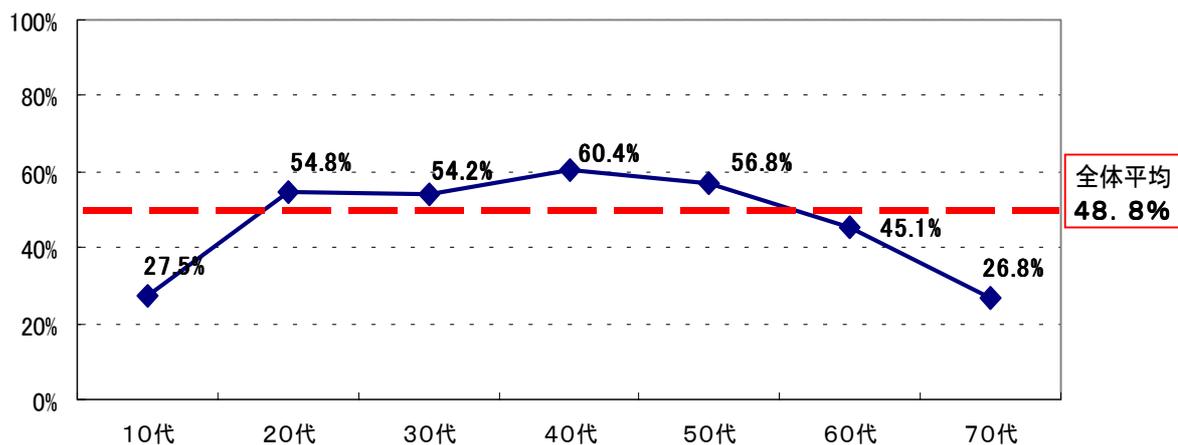
質問 5-1: 市がインターネットにホームページを開設していることをご存じですか。

- ・ 上越市が開設しているホームページの認知度は、全体で48.8%であった。
- ・ 年代別にみると、20代から60代までは全市民の約半数以上の人が知っているが、10代と70代は4人に1人の程度まで認知度が低下する。

図表41 上越市ホームページの認知度



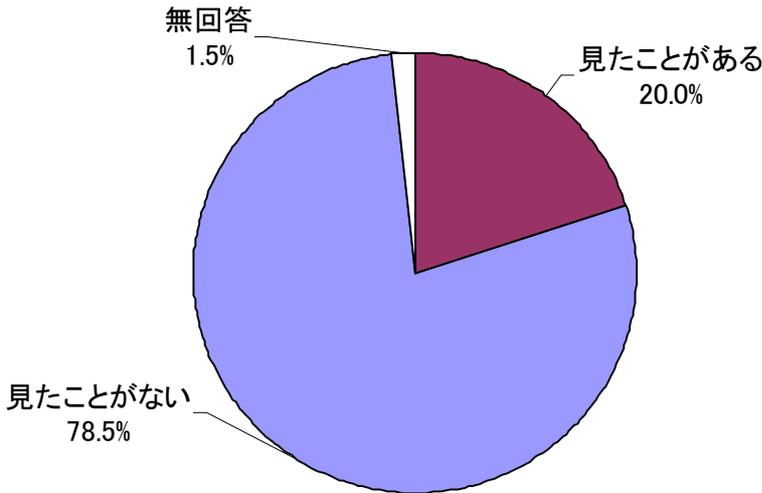
図表42 年代別上越市ホームページ認知度



質問 5-2:市のホームページを見たことがありますか。

- ・ 市のホームページを知っている人のうち、それを見たことのある人の割合は20.0%となっている。
- ・ 質問 5-1 の全体での認知度(48.8%)と合わせてみると、全市民のうち9.9%の人が見たことがあることを示している。

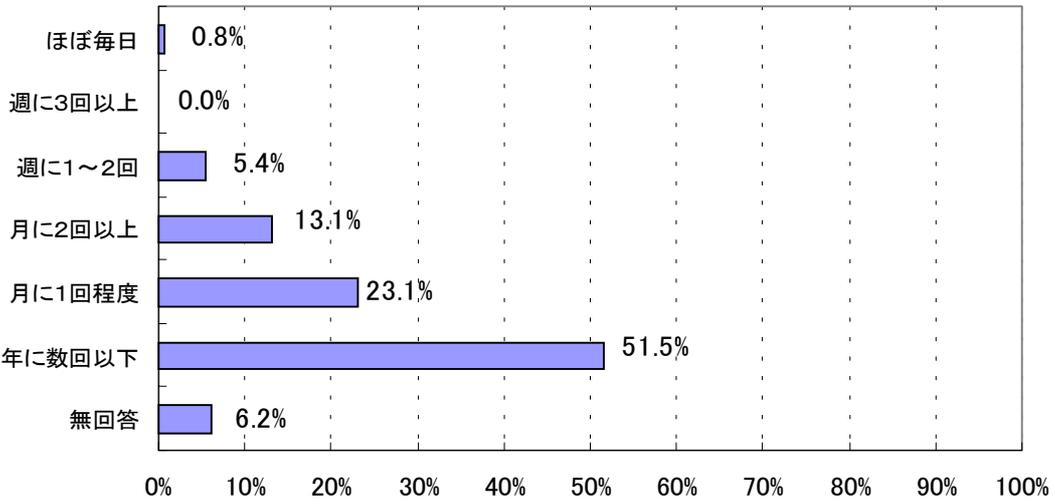
図表43 上越市ホームページ閲覧率(知っている人のうち)



質問 5-3:どれくらいの頻度でご覧になりますか。

- ・ 上越市のホームページの閲覧頻度は、「年に数回以下」が最も多く51.5%となっている。
- ・ 閲覧頻度が少ないほど割合が多くなる傾向があり、「ほぼ毎日」は0.8%にとどまる。

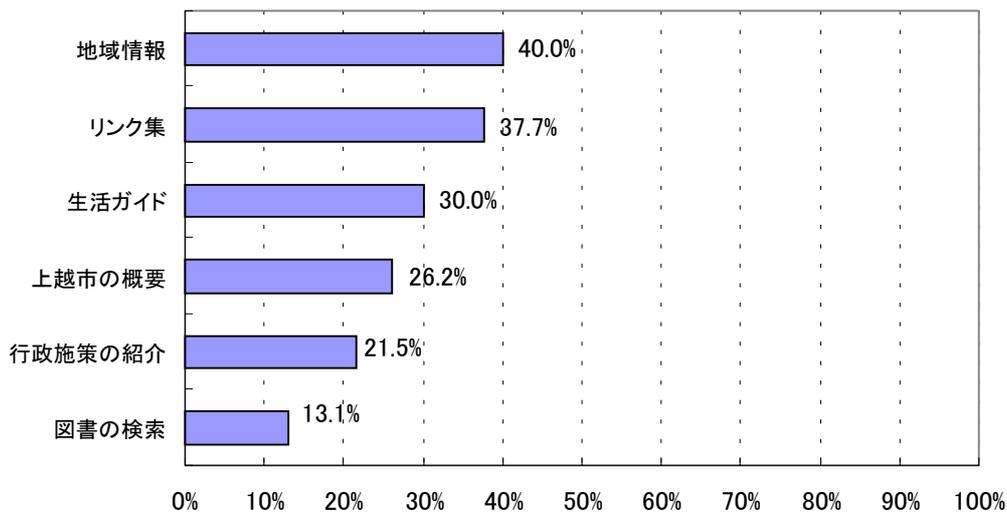
図表44 上越市ホームページ閲覧頻度



質問 5-4:どのページをご覧になりますか。

- ・ ホームページの中で最も多くの市民が見ているページは、施設や地元の偉人、サークルの紹介が載っている「地域情報」(『もっと知ってほしい上越市』)で40.0%、次に多いのが「リンク集」の37.7%となっている。
- ・ 生活ガイド(生活ガイド「ネットクリックJ24」)は30.0%、市の行政施策の紹介は21.5%であった。

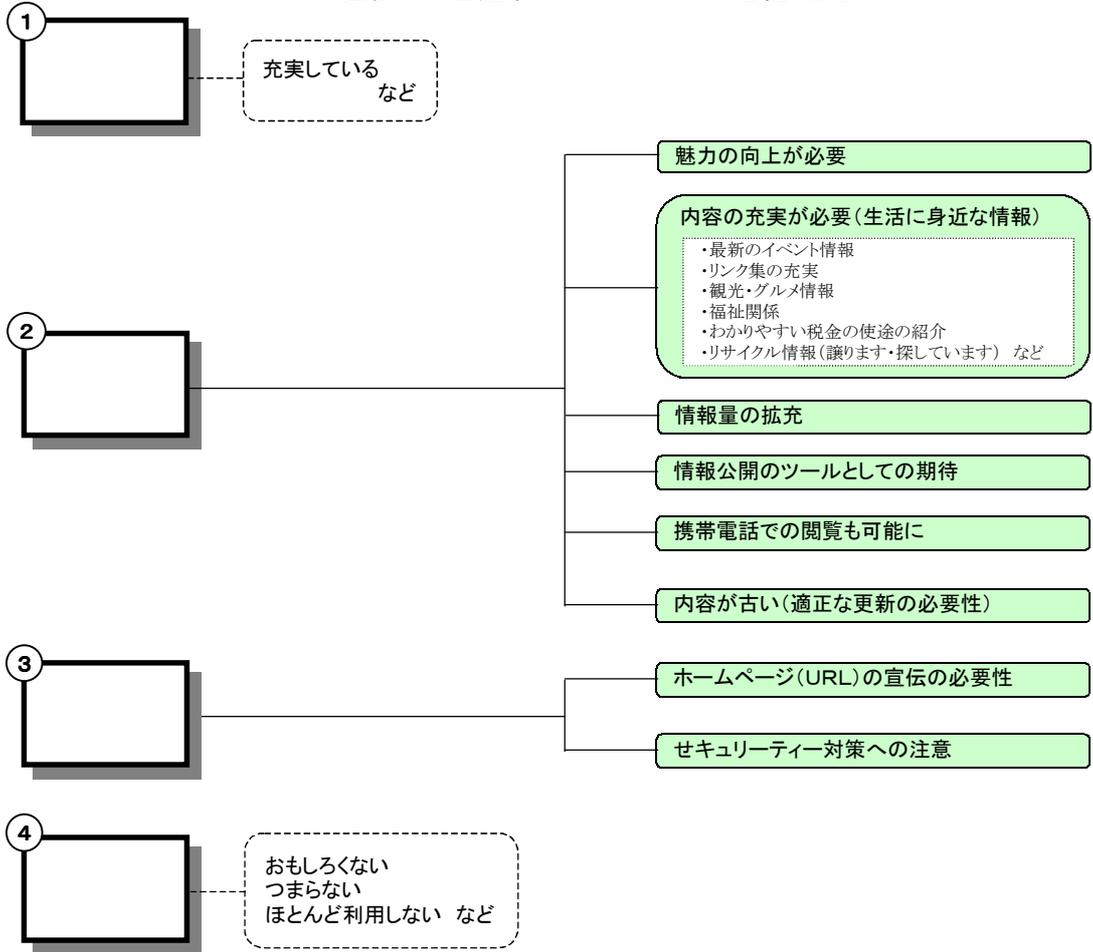
図表45 上越市ホームページ閲覧事項 (複数回答)



質問 5-5:市のホームページについてご意見・ご感想などあればお書きください。
(自由回答)

- ・ 上越市のホームページに対する意見や感想について尋ねたところ、1,335名の回答者のうち、31名の市民から具体的な回答が寄せられた。その主な意見や感想の趣旨について整理すると次のような四つの類型に分けることができる。

図表46 上越市ホームページへの意見・感想



①好意的評価

「内容が充実している」などの好意的評価がみられた。

②内容について具体的な提案や意見

見る人が楽しめる「魅力の向上」や生活に身近な「内容の充実」など、具体的な提案をみる
ことができた。

③運用について具体的な提案や意見

ホームページの宣伝の必要性や、セキュリティーへの注意の喚起などがみられた。

④消極的評価

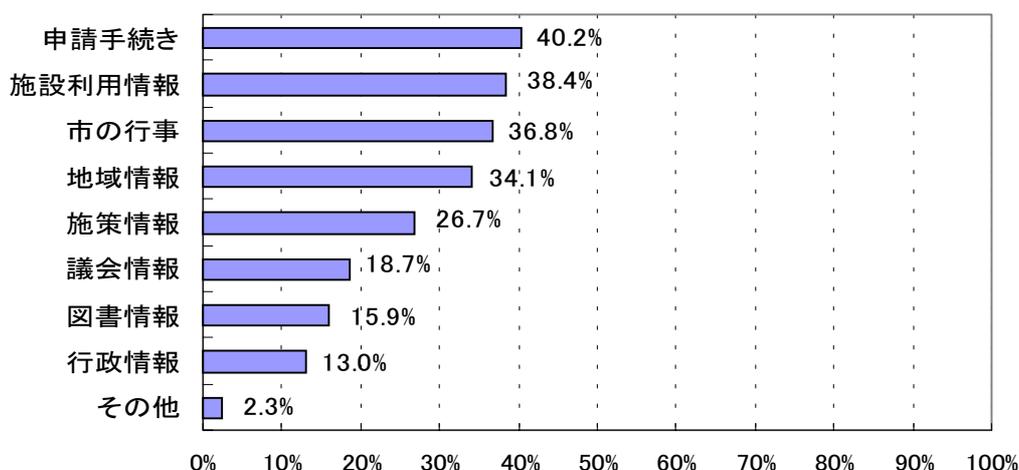
「おもしろくない」「つまらない」など内容の改善を求める意見があった。

2-6 行政から市民への情報提供のあり方

質問 6-1:市では市民のみなさんにさまざまな情報提供を行っていますが、さらなる情報提供の充実を希望される分野はどれですか。(1人3つまで回答)

- 市民が今後さらに情報提供の充実を希望している分野は、「申請手続き」40.2%、「施設利用情報」38.4%、「市の行事」36.8%、サークル活動などの「地域情報」34.1%の順であり、市民は生活に身近な情報を望んでいることがわかる。
- これらと比較して議事録などの「議会情報」が18.7%、市役所の組織についての「行政情報」は13.0%と比較的少なくなっている。

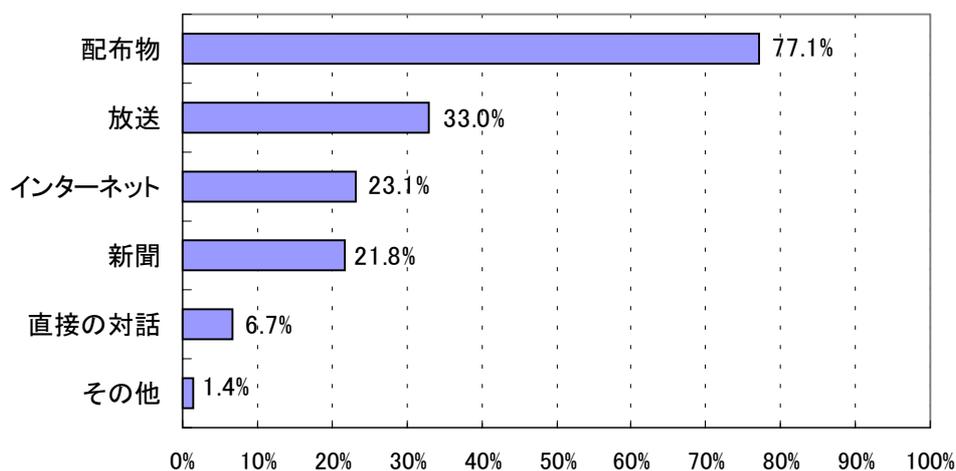
図表47 情報提供希望分野 (1人3つまで回答)



質問 6-2:情報提供の方法としてどのようなものが良いとお考えでしょうか。(1人2つまで回答)

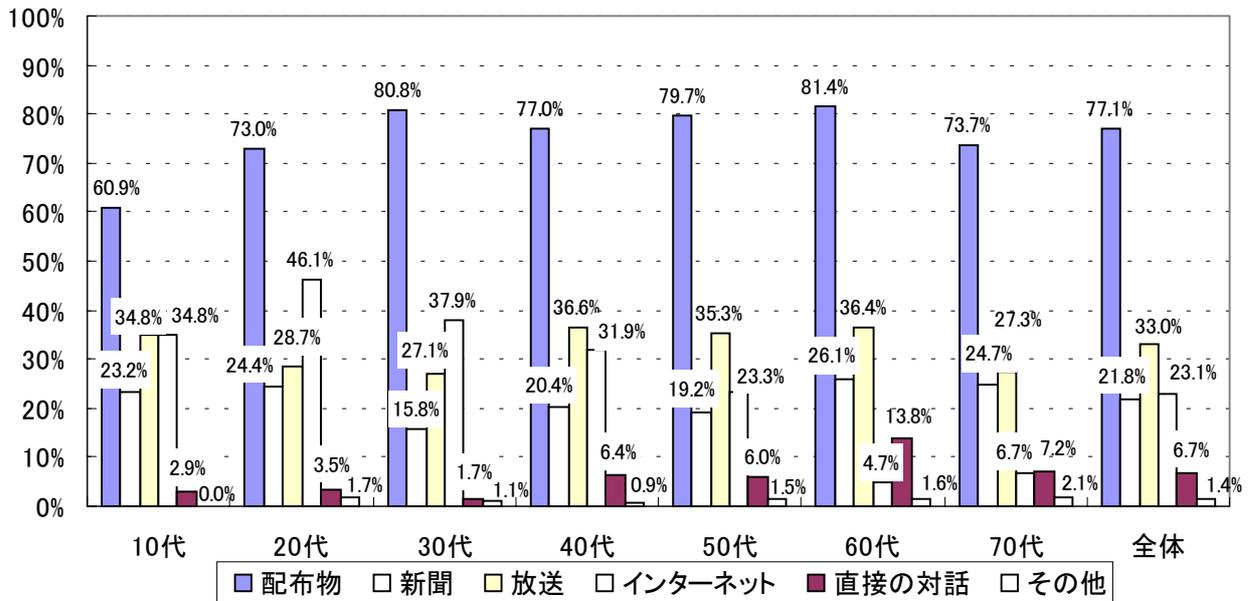
- 現在、市から市民への情報提供の方法として市民が望ましいと感じている手段は、広報じょうえつなどの「配布物」が77.1%と圧倒的に高くなっている。
- 次いでテレビ、ラジオなどの「放送」が33.0%と高く、「インターネット」は23.1%と「新聞」の21.8%と同程度となっている。

図表48 望ましい情報提供方法 (1人2つまで回答)



- ・ 前ページの結果を年代別にみると、「配布物」という意向は全ての年代で最も高い値を示している。中でも60代が81.4%と最も高く、次いで30代の80.8%、低い方では10代が60.9%と最も低い値を示している。他の年代は概ね70%代で推移している。
- ・ 各年代の方法別の序例をみると、20代と30代では、「インターネット」が第2位、10代と40～70代は「放送」が第2位となっている。60代と70代は「直接の対話」の割合が他の年代よりも高く、「インターネット」の割合は5つの選択肢中で最も低くなっている。

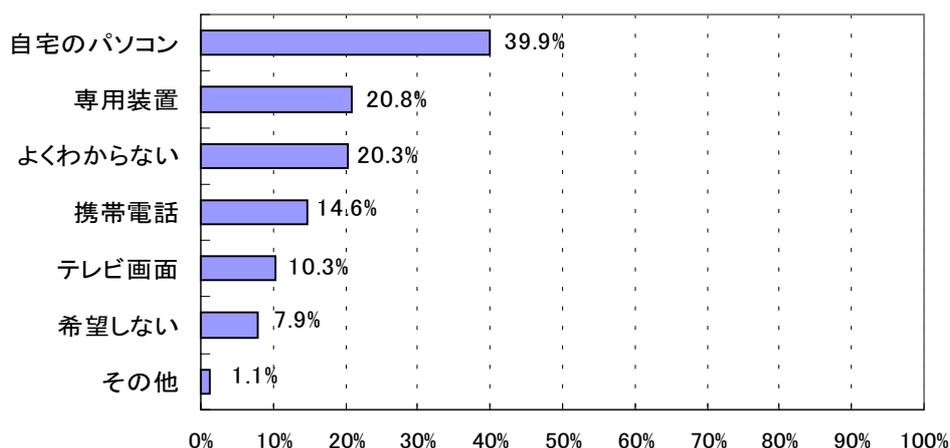
図表49 年代別望ましい情報提供方法（1人2つまで回答）



質問 6-3: インターネットを通じて市から情報提供を受ける場合、あなたはどのような方法を希望しますか。(複数回答)

- ・ 市民が、市からインターネットを通じて情報提供を受ける場合の媒体は、「自宅のパソコン」を希望する割合が39.9%と最も多かった。次に多いのは、駅やショッピングセンターなど人がよく集まる場所に設置される「専用装置」で20.8%となっている。
- ・ 現在情報端末として注目を浴びている「携帯電話」は14.6%、「テレビ画面」は10.3%とパソコンと比較すると少なくなっている。
- ・ 「よくわからない」の回答も20.3%と比較的が多くなっている。

図表50 インターネット経由での情報提供の媒体（複数回答）

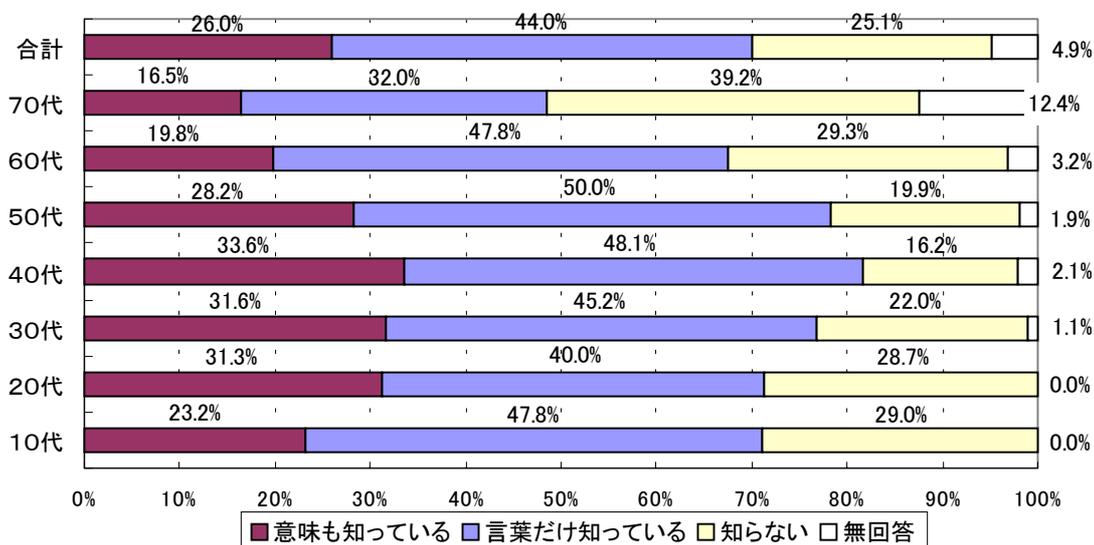


2-7 IT・電子政府に関する認知度と期待

質問 7-1:「IT」という言葉をご存じですか。

- ・ 市民の間で、「IT」(情報技術:Information Technology)という言葉を知っている人(「意味も知っている」+「言葉だけ知っている」)の割合は70.0%で、このうち26.0%は「意味も知っている」と回答している。
- ・ 年代別にみると、言葉を知っている人の割合(「意味も知っている」+「言葉だけ知っている」)は40代が81.7%と最も高く、また他の年代の認知度も概ね70%程度であるが、70代は48.5%と著しく低くなっている。
- ・ 意味も知っている人の割合は、40代が33.6%と最も高く、20代から50代までは、平均値の26.0%を上回っているが、10代と60代以上は平均値を下回っている。

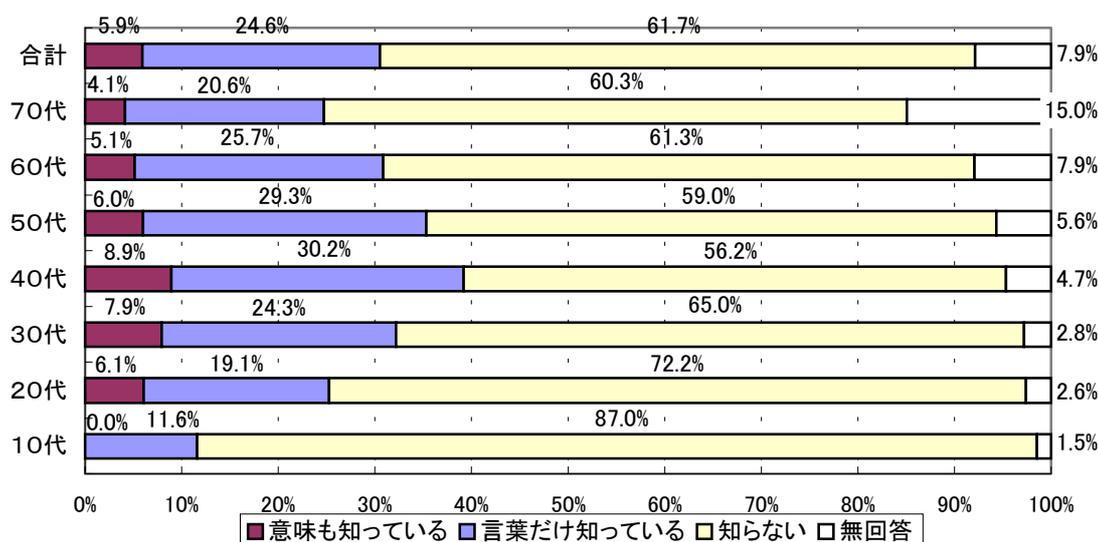
図表51 年代別用語認知度『IT』



質問 7-2:「電子政府」という言葉をご存じですか。

- ・ 市民の間で、「電子政府」という言葉を知っている人（「意味も知っている」+「言葉だけ知っている」）の割合は30.5%で、このうち5.9%は「意味も知っている」と回答している。
- ・ 年代別にみると、言葉を知っている人の割合（「意味も知っている」+「言葉だけ知っている」）は40代が39.1%と最も高く、また30代から60代までは平均値の30.5%を上回っている。20代は25.2%と70代の24.7%とほぼ同じ程度の割合となっており、10代は11.6%と最も低い。
- ・ 意味も知っている人の割合は、40代が8.9%と最も高く、20代から50代までは、平均値の5.9%を上回っている。60代以上は平均値を下回っており、10代は今回の調査の回答者では1人もいなかった。
- ・ 質問 7-1 での「IT」の認知度と比較してみると、「電子政府」の用語の認知度は「IT」の半分以下であることがわかる。

図表52 年代別用語認知度『電子政府』



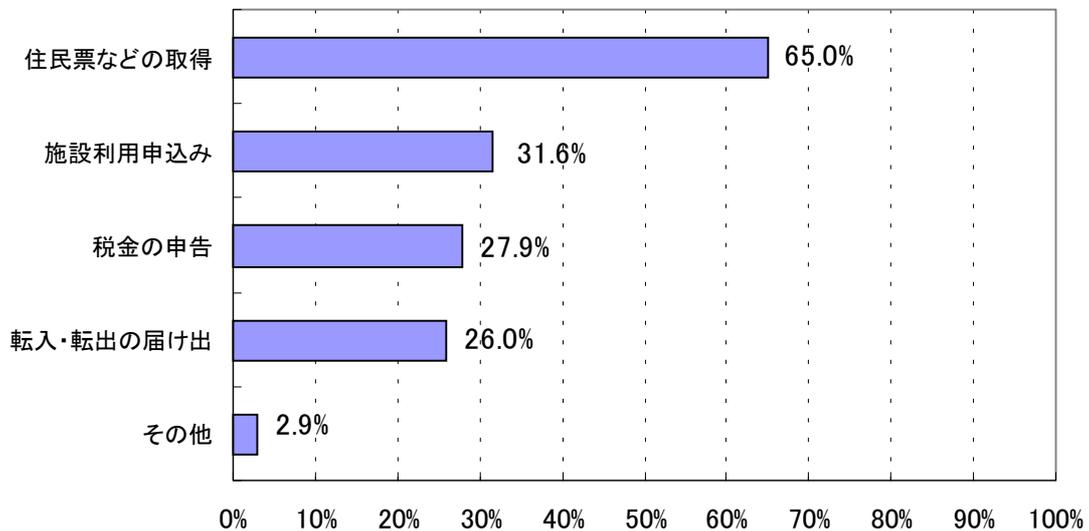
【考察】

- ・ 「電子政府」の認知度が「IT」より著しく低いのは、「IT」が一般的な言葉としてマスコミなどを通じて日常的に使われていることに対して、「電子政府」がまだ行政内部的な用語としてしか認知されていないことを示しているといえる。

質問 7-3:申請などの手続きが、インターネットを使って、市役所以外(たとえば自宅など)でできるようになるとすれば、あなたはどのようなことを期待しますか。(複数回答)

- ・ 現在市民が市役所へ来て直接行っている申請手続きの中で、今後インターネットを経由して可能になるものがあるとすれば、どの手続きが望ましいかを聞いたところ、最も多くの希望があったのは、「住民票などの取得」で65.0%、それ以外の手続きは概ね同程度の希望数で住民票の約半分程度にとどまっている。
- ・ その他の希望としては、事務手続き全てという積極的な回答から、選挙の投票や出生届といった個別の手続きの希望、また、様々な不安からインターネット経由の手続きを望まない、反対と感じている意見もみられた。

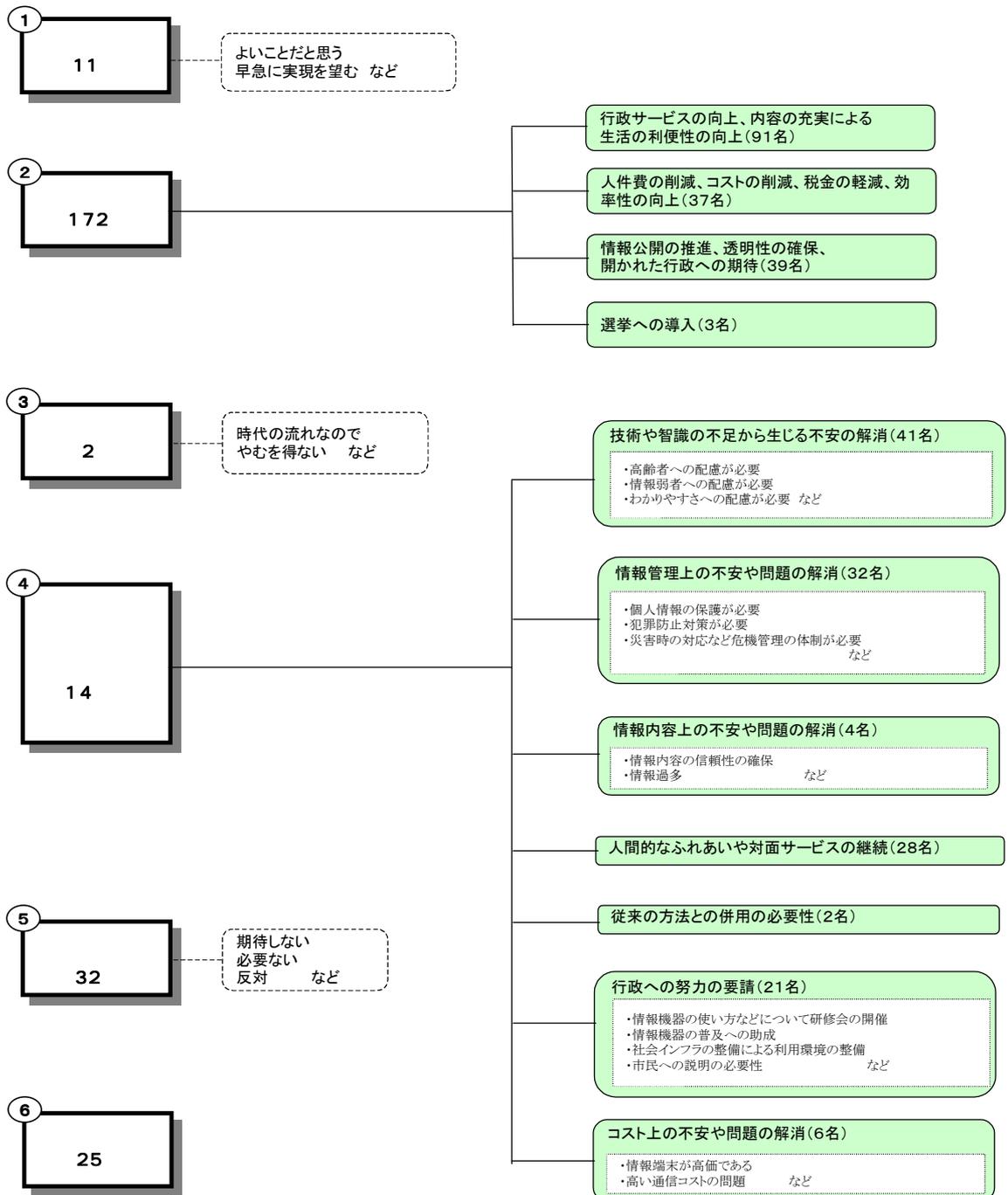
図表53 インターネットを経由した申請手続きの希望 (複数回答)



問7-4:「電子政府」とは、IT(情報技術)を積極的に使って行政の効率化を進め、よりよいサービスをめざす国や地方自治体のことをいいますが、あなたはこの電子政府にどのようなことを期待しますか。(自由回答)

- ・ 電子政府に対する市民の認識や期待、意見について尋ねたところ、1,335名の回答者のうち、374名の市民から具体的な回答が寄せられた。回答数の多さから市民の電子政府に関する関心の高さがうかがえた。
- ・ 主な意見の趣旨について整理すると次のような六つの類型に分けることができる。
※()内は回答者数

図表54 電子政府に関する意見



- ・ 電子政府については、質問7-2のとおり言葉の認知度は低いものの、その取組みについては、「具体的な期待」や「具体的な留意事項の指摘・提言」が多く寄せられ、市民からの期待や関心の高さをみることができた。しかし、一方では「期待しない」といった否定的な意見や、情報不足などの理由から「わからない」といった意見もみられた。

①積極的な期待

「よいことだと思う」「早急に実現を望む」といった電子政府の取組みについて全般的・積極的な期待の表明がみられた。

②具体的な期待

電子政府の取組みや効果について具体的な点をあげて期待を表明する意見がみられた。

具体的な効果としては、「行政サービスの向上や内容の充実による生活の利便性の向上」「人件費など行政コストの削減と効率性の向上(さらにはそれに伴う税負担の軽減)」「情報公開の推進や透明性の確保など、開かれた行政の実現」「選挙への導入」といったものがみられ、市民が電子政府に対して具体的に期待している内容を読み取ることができた。

③消極的な同意

電子政府に対し、「時代の流れとしてやむを得ない」などやや消極的ではあるが同意・賛同する意見がみられた。

④具体的な留意事項の指摘・提言

電子政府を実現するときに留意すべき事項を指摘・提言する意見がみられた。

これらの中には、いわゆる「デジタル・デバイド」への不安や問題点などを指摘し、その解決を求める意見や、情報管理面での対策など電子政府を推進する上での具体的な留意事項を指摘する意見がみられた。市民が「技術や知識の不足」「個人情報の保護」「情報内容の信頼性」といった点に対して不安をもっていることや、「人間的なふれあいや対面サービスの継続」「従来の方法との併用」「行政の更なる努力」を求めていることを読み取ることができた。

⑤全般的な否定・反対

電子政府の取組みや理念について「期待しない」「不要」「反対」「自分とは関係ない」という意見がみられた。

⑥わからない

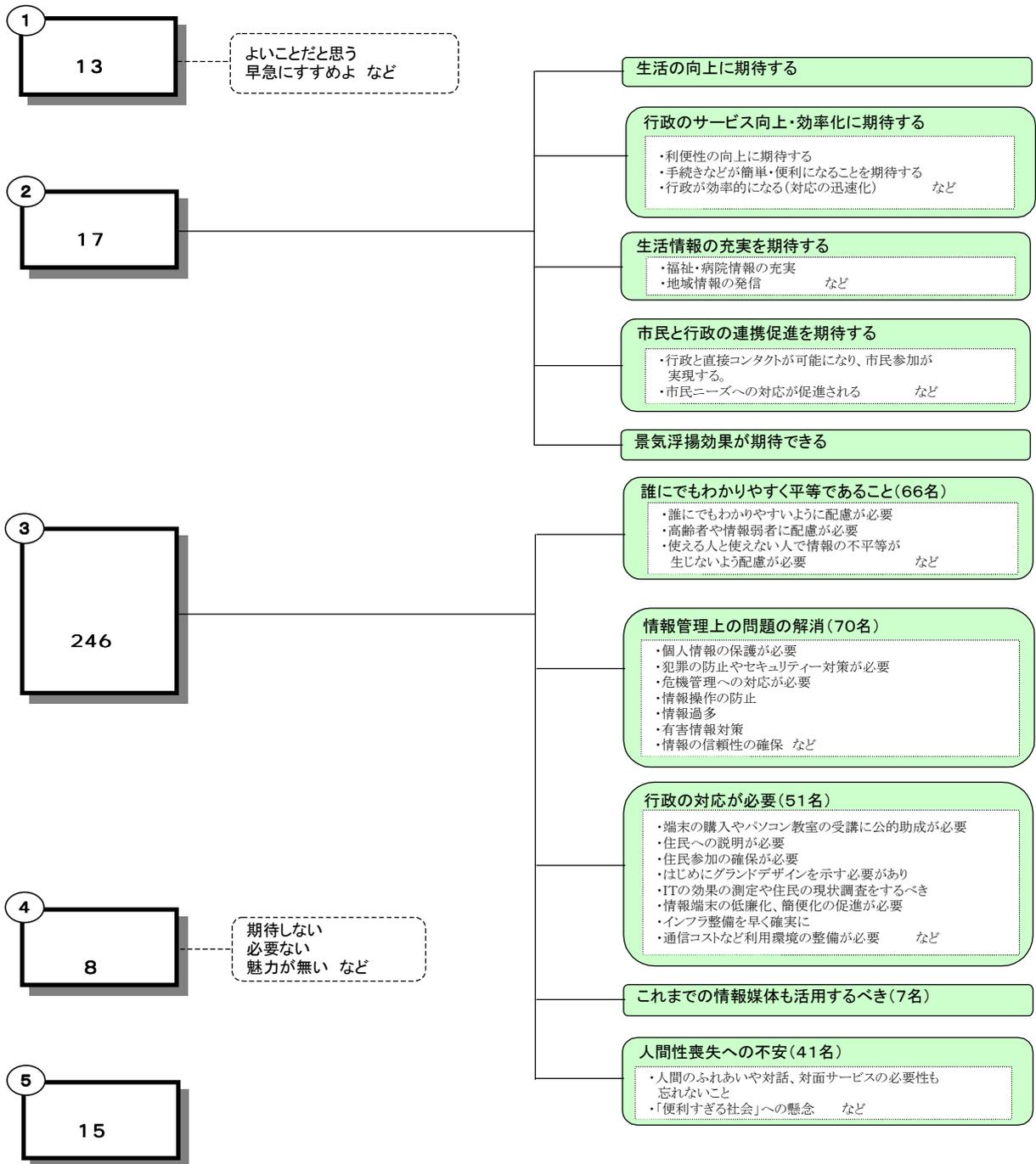
最後に電子政府について「わからない」という意見もあった。この中にも、「言葉がわからない」「内容がわからない」「やってみないとわからない」といった様々な要因がみられた。

※市民から寄せられた意見の主なものは、報告書最後の付属資料(付 2-1)を参照。

質問 7-5: 情報化社会、ITについてご意見・ご感想がありましたらお書きください
(自由回答)

- ・ 情報化社会やIT全般について市民の認識や期待、意見について尋ねたところ、1,335名の回答者のうち、297名の市民から具体的な回答が寄せられた。電子政府に関する回答同様多くの回答があり、情報化社会・ITについての市民の関心の高さがうかがえた。
- ・ 主な意見の趣旨を整理すると、次のような五つの類型に分けることができる。
※()内は回答者数

図表55 情報化社会・ITについての意見・感想



- ・ 情報化社会やITについての意見・感想では、具体的な留意事項を指摘・提言する意見が最も多く寄せられた。また、意見の主なもの、電子政府に関する意見(質問 7-4)とほぼ重複していた。

①積極的な肯定

「よいことだと思う」「早急に進めよ」といった「IT」や「社会の情報化」について全般的・積極的な期待の表明がみられた。

②具体的な期待

「生活の向上に期待する」「行政のサービス向上・効率化に期待する」「生活情報の充実を期待する」といった電子政府への期待と同様の意見や、「市民と行政の連携促進を期待する」といったコミュニケーション手段としての期待がみられた。また、ITによる景気浮揚効果への期待もみることができた。

③具体的な留意事項の指摘・提言

ITを使える人と使えない人の格差などについて「誰にでもわかりやすく平等であることが必要」といった指摘や、個人情報の保護や犯罪の防止といった「情報管理上の問題の解消」を指摘する意見が非常に多くみられた。また、情報化社会の進展に対して、行政に各種対応を求める意見や「これまでの情報媒体も活用すべき」、さらには「人間性喪失への不安」といった個人の価値観の違いが現れる意見もみられた。

④全般的な否定・反対

ITや情報化について不要・反対と感じたり、「自分とは関係ない」というような意見がみられた。

⑤わからない

知識不足で判断がつかないといった回答が多かった。

※市民から寄せられた意見の主なものは、報告書最後の付属資料(付 2-2)を参照。

3-1 市民生活の情報化の現状と将来の可能性

以上各項目の調査結果から、市民生活の情報化の現状と将来の可能性について、下記のとおりとりまとめることができる。

(1) 上越市民のパソコン利用状況

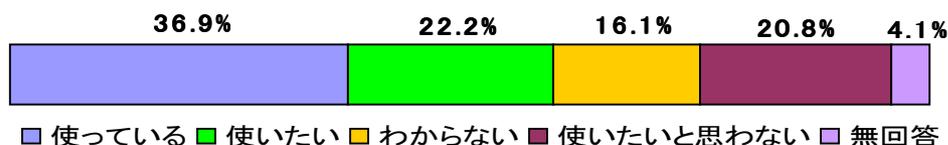
①現状

- ・ 上越市民のパソコン利用率は、36.9%で、若い世代ほど高い傾向を示している。
- ・ 利用場所は「自宅」(67.3%)と「勤務先」(62.2%)が多く、利用頻度では、「ほぼ毎日使っている」人が市民全体の20.9%にのぼっている。
- ・ パソコンの用途としては、「仕事」(70.7%)、「インターネット」(47.0%)、「電子メール」(39.4%)が多い。

②将来の可能性

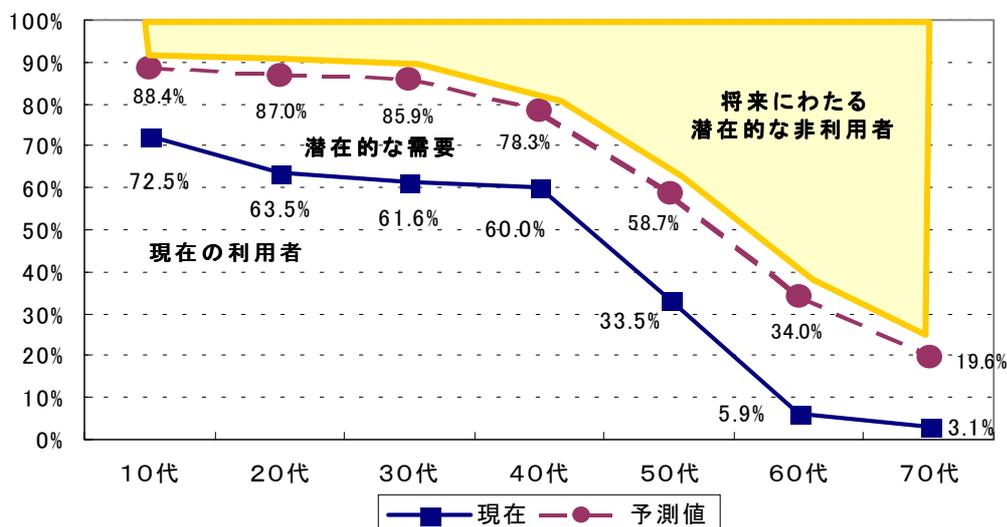
- ・ 現在は利用していないが今後利用したいと思っている人は、全市民の22.2%おり、現在使っている人(36.9%)と合わせると、近い将来のパソコンの利用率は6割程度まで上昇する可能性があるとして予測できる。

図表56 上越市民のパソコン利用の現状と将来の可能性



- ・ 利用率の世代間格差は、現在最大で69.4ポイント(10代:72.5%⇔70代:3.1%)であるが、今後利用したいと思っている人が将来全員利用した場合でも、その開きは68.8ポイント(10代:88.4%⇔70代:19.6%)と0.6ポイントしか縮まらず、近い将来では引続きパソコンの利用状況に世代間格差が残ることが予測できる。
- ・ しかし、10代から40代にかけての利用率の高さから、将来を中・長期的に展望した場合、今後パソコンの利用は、現在以上に日常生活の欠かせない部分となっていくことが予測できる。

図表57 将来の「パソコン利用率の予測」



(2) 上越市民の世帯におけるパソコン普及状況

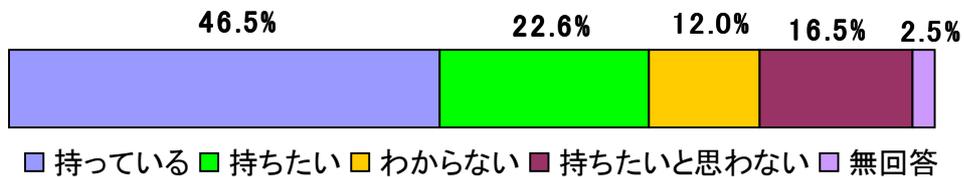
①現状

- ・ 上越市のパソコン世帯普及率は46.5%で、パソコンを持つとしようとする世帯も年々増加傾向にある。
- ・ 使い方も特定の個人だけではなく家族での利用もみられ、用途は「インターネット」(53.8%)、「趣味」(46.2%)、「電子メール」(41.1%)といった娯楽性の高いものが増えており、「仕事」(53.0%)は個人で利用の場合より2割程度少なくなっている。

②将来の可能性

- ・ 現在持っていない世帯でも今後持ちたいと思っている世帯は、全世帯の22.6%あり、現在持っている世帯(46.5%)と合わせると、近い将来のパソコンの世帯普及率は7割程度まで上昇する可能性があると予測できる。

図表58 上越市の世帯におけるパソコン所有の現状と将来の可能性



(3) 上越市民の携帯電話所有状況

①現状

- ・ 上越市民の携帯電話所有率は42.2%で、若い世代ほど高い傾向を示している。携帯電話を持つとする人も年々増加傾向を示している。
- ・ インターネットへの接続対応機種を持っている人は、全市民の8.8%となっているが、実際にインターネットからの情報の受信に利用している人は全市民の5.4%にとどまる。
- ・ 一方電子メールなどのメール機能を利用している人は全市民の13.5%と、携帯電話は現在、情報端末機としてよりはコミュニケーションの手段としての利用が多いことがわかる。

②将来の可能性

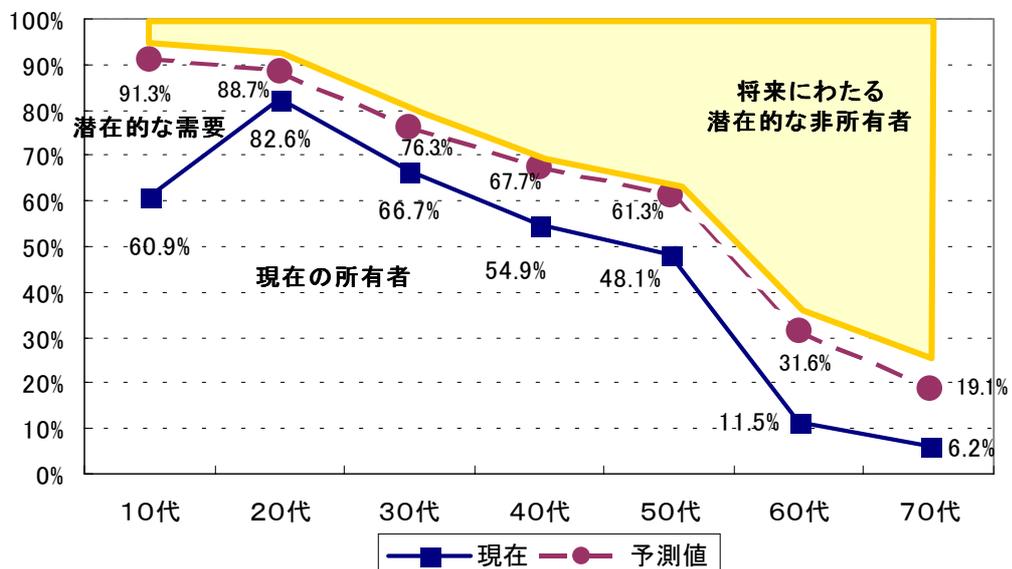
- ・ 現在持っていないが今後持ちたいと思っている人は、全市民の14.0%おり、現在持っている人(42.2%)と合わせると、近い将来の携帯電話所有率は6割程度まで上昇する可能性があるかと予測できる。
- ・ 一方携帯電話を持ちたくないと思っている人は全市民の27.6%とパソコンと比べて多くなっており、今後、携帯電話の所有率は7割程度で頭打ちになるとも予想できる。

図表59 上越市民の携帯電話所有の現状と将来の可能性



- ・ 所有率の世代間格差は、現在最大で76.4ポイント(20代:82.6%⇔70代:6.2%)あるが、今後持ちたいと思っている人が将来全員利用した場合でも72.2ポイント(10代:91.3%⇔70代:19.1%)と4.2ポイントしか縮まらず、将来も引続き携帯電話の所有に関して世代間格差が残ることが予測できる。
- ・ しかし、パソコンの利用と同様に、10代から50代にかけての所有率の高さから、将来を中・長期的に展望した場合、大半の人が携帯電話を所有するようになることが予測できる。

図表60 将来の「携帯電話所有率の予測」



(4) 上越市民のインターネット利用状況

①現状

- ・ 上越市民のインターネット利用率は25.0%で、若い世代ほど高い傾向を示した。
- ・ インターネットへの接続機器はほとんどがパソコン(91.0%)で、次に携帯電話(24.6%)が多く、その他の情報機器はわずか1%程度であった。
- ・ 利用場所は、「自宅」が78.4%と圧倒的に多く、「職場」は40.7%と家庭でのインターネット利用が多いことがわかる。
- ・ 利用目的は「ホームページの閲覧」が86.2%、「電子メール」が78.1%で、「ネットショッピング」は15.6%にとどまる。
- ・ 利用頻度は「ほぼ毎日」が最も多く、全市民の11.9%がほぼ毎日インターネットにアクセスしていることがわかった。
- ・ 利用上の不満や不自由では、「料金の高さ」(59.9%)や「通信速度の遅さ」(45.5%)といった利用環境に対するものが多かった。

②将来の可能性

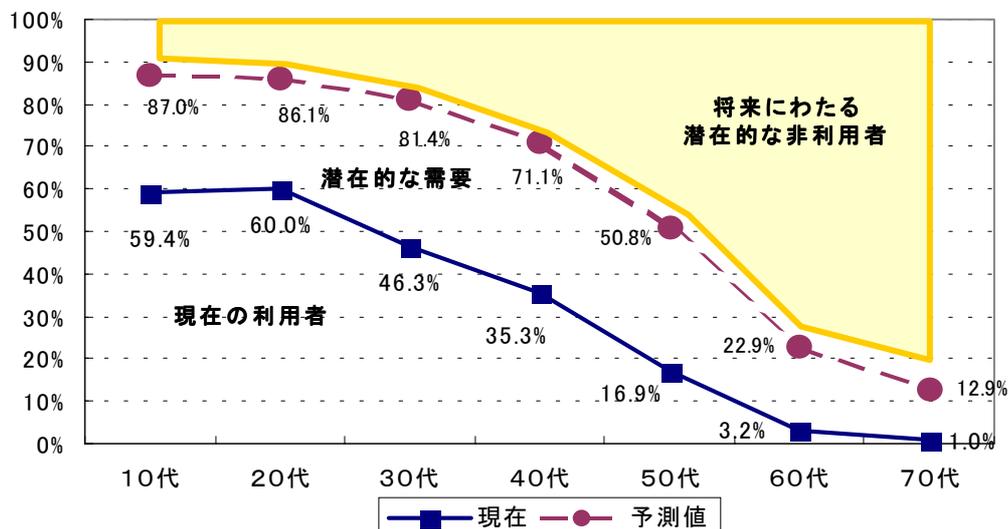
- ・ 現在インターネットを利用していなくても今後利用したいと思っている人は、全市民の27.2%おり、現在利用している人(25.0%)と合わせると、近い将来のインターネット利用率は5割程度まで上昇する可能性があると予測できる。

図表61 上越市民のインターネット利用の現状と将来の可能性



- ・ 利用率の世代間格差は、現在最大で59.0ポイント(20代:60.0%⇔70代:1.0%)であるが、今後使いたいと思っている人が将来全員利用した場合では74.1ポイント(10代:87.0%⇔70代:12.9%)まで開き、近い将来ではインターネットの利用について世代間格差が拡大することが予測できる。
- ・ しかし、10代から30代にかけての利用率の高さや、40代、50代の潜在的な需要の高さから、将来を中・長期的に展望した場合、インターネットの利用が現在以上に日常生活の欠かせない部分となっていくことが予測できる。

図表62 将来の「インターネット利用率の予測」



(5) 調査結果から読み取れる行政課題

①ITの普及状況を踏まえた施策の展開

- ・ 上越市民のパソコン・携帯電話・インターネットの利用・所有状況を調査した結果、こうしたものに代表されるITが、明らかに市民生活の中に浸透してきていることがわかった。
- ・ 個人のパソコン利用率が36.9%、インターネット利用率が25.0%、携帯電話所有率が42.2%、世帯におけるパソコン普及率が46.5%といった状況を直視し、社会のIT化は将来のことではなく既に進行中の現象と認識する必要がある。
- ・ また、ITへの関心の高さから中・長期的に将来を展望すると、ITは確実に日常生活の欠かせない部分となっていくことが予測される。
- ・ このような現状を踏まえ、ITの活用を行政施策の基本的な視点の一つとして据え、具体的な活用方策を早急に検討する必要がある。

②ITの活用状況の多様性を踏まえた施策の展開

- ・ IT機器やインターネットの利用率は、若い世代が高く、高齢者は低い傾向にあり、ITの活用状況には世代間で大きな格差があることがわかった。さらには、ITへの関心も同様の傾向がみられ、この格差はしばらくの間存続するものと予測される。
- ・ また、このような格差は、年齢だけが要因ではなく、職場や学校などITが比較的整備された環境に接する機会を持つか否かでも生じてくるものと思われる。
- ・ 一方、現在IT機器やインターネットを利用している者の間でも、日常的にこれらを利用して「活用できている者」と、散発的・限定的な利用のみで「活用できていない者」との格差が生じてくると思われる。
- ・ 今後ITが日常生活の欠かせない部分となっていく中で、行政としては、このように市民のIT活用状況に多様性があることを踏まえて施策を展開する必要がある。
- ・ そのためには、市民生活におけるITの普及・活用状況や、ITによる社会の変化を的確に捉えるとともに、行政サービスの提供にあたってはITの活用のみにも偏重することなく、従来のスタイルによる行政サービスも併せて継続・改善をしていくことにより、結果として全ての市民に同等のサービス享受の機会を確保できるようにする姿勢が必要である。

③ITに関する情報収集と動向調査の必要性

- ・ ITの進展は日進月歩であり、その機器や分野もパソコン・携帯電話・インターネットだけではなく、様々な形で市民に普及していくことが予測されることから、行政としては、ITに関する技術や社会の動向に注視するとともに、市民の実態を常に的確に把握する必要がある。

3-2 行政から市民への情報提供についての課題

市民の意見や感想から、上越市のホームページや、これからの適切な情報伝達手段について、次のような課題を読み取ることができる。

①ホームページの改善の必要性

- ・ 上越市のホームページは、現在約半数の市民が認知し、1割の市民に見られているが、その利用状況は散発的で、必ずしも市民が日常的に利用するサイトにはなっていないことがわかった。また、利用者の感想に「情報の充実」や「魅力の向上」といった要望が多いことから、内容を質・量ともに充実し、市民にとって親しみが持てるサイトにするように改善していく必要があると言えるであろう。
- ・ このような市民の意見を参考として、今後進展していくIT社会の上越市(上越市役所)の顔として、利用者の視点に立ったホームページの運営を検討していく必要があると思われる。

②適切な情報伝達・コミュニケーション手段の検討

- ・ 現在、行政から市民への情報伝達手段のニーズとしては、広報などの配布物を望むものが圧倒的に高く、一方インターネットなどIT分野へのニーズは、まだ全市民的な傾向となっていない。
- ・ この要因としては、ITの普及状況や、ホームページの認知度・内容に起因するところがあると思われる。
- ・ しかし、当調査で明らかとなった市民生活の情報化の現状や、今後の社会のIT化の流れを踏まえると、インターネットなどのITを活用した情報伝達は今後の行政にとって必要不可欠なものであり、市民にとってより便利で魅力的なものとするように早急に取り組んでいく必要があると思われる。
- ・ また、市民の間でITの活用状況が多様であることを念頭に、各媒体の特長を最大限に生かし、既存の媒体や手段との適切な組合せ(ベストミックス)にも配慮する必要がある。

3-3 電子自治体推進にあたっての課題

「電子政府」(電子自治体)、「情報化社会」「IT」についての市民の意見や感想から、電子自治体推進にあたって、次のような課題を読み取ることができる。

①市民へのさらなる説明の必要性

- ・ 現在、市民の間での「電子政府」(電子自治体)に関する認知度は、いまだ高いとは言えない状況であり、政府並びに自治体の説明が不足していることを示す結果となった。しかし、「電子政府」の効果そのものについては、市民に高い関心があることがわかった。今後は、その目的・効果・内容について一層丁寧に説明していく必要がある。

②市民が持つ様々な不安の解消

- ・ 市民が、IT化社会全般や、それらを利用した電子政府に対して様々な不安をもっていることがわかった。電子自治体推進にあたっては、その不安を解消し、利用者である市民の視点を大切にしながら、ITの利点を最大限に活用していく必要がある。

< 付属資料 >

★記入に当たってのお願い

このアンケートは、さまざまな年代の市民のみなさんを対象に、パソコンや携帯電話などの使用状況や、今後の市からの情報提供のあり方・方法などについて調査するものです。つきましては、封筒の宛名に記されている方から、ご回答をいただきますようお願いいたします。また、回答の際には、該当する番号のところに○印をつけてください。

問1. パソコンを使っていますか

(1) あなたは現在パソコンを使っていますか。(ときどき使うことも含めて)

1. 使っている 2. 使っていない

⇒ (5) にお進みください

(2) どこで使っていますか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 自宅 2. 勤務先 3. 学校 4. その他(具体的に:)

(3) 平均してどのくらいの頻度で利用していますか。

1. ほぼ毎日 2. 週に3回以上 3. 週に1~2回
4. 月に2回以上 5. 月に1回以下

(4) どのようなことにお使いですか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 仕事 2. 趣味 3. ゲーム 4. インターネット
5. 電子メール 6. 学習
7. その他(具体的に)

(5) これから使いたいと思いますか。((1)で2と答えた方のみ)

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問2. 自宅にパソコンがありますか

(1) あなたの自宅にパソコンがありますか。

1. ある 2. ない

⇒ (5) にお進みください

(2) いつからありますか。

1. 1年前から 2. 3年前から 3. 5年前から 4. 5年以上前から

(3) 誰が使っていますか。

1. あなたご自身だけ 2. あなた以外の家族のどなたか
3. あなたを含めた家族で

(4) 自宅のパソコンをどのようなことにお使いですか。

(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 仕事 2. 趣味 3. ゲーム 4. インターネット
5. 電子メール 6. 学習
7. その他(具体的に)

(5) これから持ちたいと思いますか。((1)で2と答えた方のみ)

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問3. 携帯電話を持っていますか

(1) あなたは携帯電話（PHSを含む）を持っていますか。

1. 持っている 2. 持っていない

⇒ (5) にお進みください

(2) いつから持っていますか。

1. 1年前から 2. 3年前から 3. 5年前から 4. 5年以上前から

(3) あなたの携帯電話はインターネットにつながっていますか。

1. つながっている 2. つながっていない

(4) 携帯電話をどのようなことにお使いですか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 電話 2. メール 3. インターネット 4. ゲーム
5. その他（具体的に

(5) これから持ちたいと思いますか。((1)で2と答えた方のみ)

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問4. インターネットを利用していますか

(1) あなたはインターネットを利用していますか。

1. 利用している 2. 利用したことがない

⇒ (7) にお進みください

(2) どのような機器で利用していますか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. パソコン 2. 携帯電話 3. 家庭用テレビゲーム機
4. ワープロ 5. テレビ 6. その他（具体的に

(3) どこで利用していますか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 自宅 2. 勤務先 3. 学校 4. 外出先
5. その他（具体的に

(4) どのようなことにお使いですか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 電子メール 2. ホームページの閲覧 3. ホームページの開設
4. ショッピング 5. 各種予約・申込み 6. 銀行などのお金の管理
7. その他（具体的に

(5) 平均してどのくらいの頻度で利用していますか。

1. ほぼ毎日 2. 週に3回以上 3. 週に1~2回
4. 月に2回以上 5. 月に1回以下

(6) 使っていて不満や不自由に思うことがありますか。

(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 料金が高い 2. 通信速度が遅い 3. 必要な情報がない
4. 必要な情報の検索が難しい 5. 個人情報の保護に不安がある
6. その他（具体的に

(7) 今後利用したいと思いますか。((1)で2と答えた方のみ)

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

(3) インターネットを通じて市から情報提供を受ける場合、あなたはどのような方法を希望しますか。(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 自宅などでパソコンを使ってインターネットから情報を得る
2. 携帯電話を使って情報を得る
3. テレビゲーム機などを使って、テレビ画面から情報を得る
4. 駅やショッピングセンターなど人がよく集まる場所で、専用の装置から情報を得る
5. 上記以外の方法(具体的に)
6. 希望しない
7. よくわからない

問7. IT、電子政府などについて

(1) IT(*)という言葉をご存じですか。

1. 言葉だけは知っている
2. 意味も知っている
3. 知らない

* : アイディーITとはインフォメーション情報技術(テクノロジーInformation Technology)の略で、コンピュータと通信技術を使って、高度な情報のやりとりを行うことです。

(2) 「電子政府」という言葉をご存じですか。

1. 言葉だけは知っている
2. 意味も知っている
3. 知らない

(3) 申請などの手続きが、インターネットを使って、市役所以外(たとえば自宅など)でできるようになるとすれば、あなたはどのようなことを期待しますか。

(該当するものにいくつでも○を付けてください)

1. 体育館の予約など、市の施設の利用申込み
2. 住民票の写しや印鑑証明などの取得
3. 税金の申告
4. 転入・転出の届け出
5. その他(具体的に)

(4) 「電子政府」とは、IT(情報技術)を積極的に使って行政の効率化を進め、よりよいサービスをめざす国や地方自治体のことをいいますが、あなたはこの電子政府にどのようなことを期待しますか。

[]

(5) 情報化社会、ITについてご意見・ご感想などありましたらお書きください。

[]

最後に、あなたご自身についてうかがいます。

- A. 性別 1. 男 2. 女
- B. 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
- C. ご職業 1. 農林漁業 2. 会社員 3. 自営業 4. 公務員 5. 学生
6. パート・アルバイト 7. 会社経営 8. 団体役職員 9. 家事従事
10. 無職 11. その他(具体的に)
- D. あなたを含めた同居家族の人数
1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

ご協力ありがとうございました。

付2-1

「電子政府」についての自由回答より（質問 7-4）

①積極的な期待（11名）

是非実現させてください。

30代女性 パート・アルバイト

積極的に推進していただきたい。

70代男性 会社員

②具体的な期待（172名）

a. 行政サービスの向上、内容の充実による生活の利便性の向上（91名）

24時間対応可能。低料金、安心感であり迅速かつ的確。

20代男性 パート・アルバイト

時間外や、休日でも申請手続きが出来るようになってほしいと思います。広報に載っていない事をITで流してほしい。（市内の洪水の様子、発掘作業、新設備の紹介、ゴミ分別の実態、地域の生の声など）

40代女性 公務員

市役所に出向くには、時間的にも制限があるので、どんな時間でも手続き等ができれば便利であると思う。

40代女性 公務員

転勤族なので効率的に住民票の手続き、税金申告が出来るようになると助かる。

20代男性 公務員

利便、簡便、効率。

30代男性 会社員

地方分権の流れの中で、自治体がより効率的に情報を使って市民にサービスできることを望む。

70代女性 自営業

よりスピーディーに対応できること。

30代女性 パート・アルバイト

色々な申請が自宅に居ながら出来るようになれば、時間の節約にもなり、素晴らしいことです。

40代女性 パート・アルバイト

時間の節約、乗り物のない人、体調等の都合で窓口へ行けない人には便利だと思う。

50代女性 自営業

ひとり暮らしの寝たきりの人達との連絡等で、少しでも安心できる生活が出来るように役立ててほしい。

50代女性 自営業

災害の時等の早い情報。

50代女性 家事従事

希望する市民にパソコンを提供し、インターネットで市から情報を発して行政の効率化を進め、他市町村との差別化を。

50代女性 家事従事

若い人が行政に興味を持つこと。

10代男性 学生

b. 人件費の削減、コストの削減、税金の軽減、効率性の向上（37名）

業務の効率化・簡素化。

20代男性 会社員

効率化による節約が進み、減税になること。

50代女性 家事従事

行政のコストダウン(人員の削減・減税)	50代男性 公務員
行政がますます「安・近・短」になる	40代男性 公務員
c. 情報公開の推進、透明性の確保、開かれた行政への期待(39名)	
市民税の使い方や、会議の内容、市長・副市長の意見などが家で見られたら、もっと行政のことを考えると思う。	30代女性 自営業
日曜・祭日・時間外の救急車を使うような大げさなものではなく、子供の発熱や診療してくれる病院等の常に把握して紹介するシステムは出来ないか。	70代男性 その他
行政・議会の様子をわかりやすく公開して欲しい。	20代男性 学生
開かれた行政。	40代女性 その他
情報公開(分かりやすく)	30代男性 会社員
行政への市民の意見交換なども充実し、より国と国民が近くなればよいと思います。	10代女性 学生
市民からの意見をより多く取り入れた行政運営。気楽に意見を言える仕組み。	30代女性 公務員
多勢の市民から意見・アイデア、提案を募る様な方式で往来ある情報網の整備を。	60代男性 会社員
d. 選挙への導入(3名)	
市民の意見などがもっと聞き入れられること。また、選挙の際、投票所にわざわざ行かなくても投票ができるようになってほしいです。	10代女性 学生
e. その他(2名)	
IT革命により益々地方分権化が進み、地方自治体の発展に大きく寄与するものと思います。	70代男性 無職
③消極的な同意(2名)	
あまり期待していませんが、これからの時代はなくてはならないのではと思う。	60代女性 無職
④具体的な留意事項の指摘・提言(143名)	
a. 技術や智識の不足から生じる不安の解消(41名)	
使ってよくなればいいけど、パソコンなど使わない人にとっては分からないことだし、パソコンを持っている人でも興味がなければ変わらない。どんな人でも分かるような「電子政府」になればいいと思う。	20代女性 パート・アルバイト
便利になることは大変良いことだと思うが、世の中の流れについていけない人(高齢者や主婦など)がいることも考えて欲しい。	30代女性 パート・アルバイト

効率化＝節税につながる事は大賛成ですが、現実問題として誰もが理解するには無理があると思います。特に、私を含めた高齢者にとっては。これからの高齢化社会においては機器を備えたくとも備えることができない状況にある方、又機器が家にあっても(私もそのうちの一人ですが)面倒くさいので無関心でいる者等々、誰もが理解しついでに行ける時が来ることを期待します。(機器に使われるのではなく、機器を使いこなせる様になりたいと思っています。)

高齢化社会を踏まえ、お年よりも使えるITであることが何よりも重要と考える。また、そうすることで誰もが使えるITになりえるのではないか。

便利・効率化はよいが、高齢者には疑問。年金生活者の経済状態からは、機器購入の負担は重い。

市民一人一人にわかりやすく工夫して欲しい。

50代女性 パート・アルバイト

30代女性 家事従事

60代男性 無職

50代女性 家事従事

b. 情報管理上の不安や問題の解消(32名)

個人の情報がどれだけ守られるか不安がある。効率が上がるのはよいが、情報管理がしっかりできた上でのことと思う。

個人情報の漏れ、電子関係であるため故障、等の対策を十分に検討していただきたい。また誰もが簡単に情報を取得、操作できるシステムにして欲しい。

プライバシーに関わる情報をしっかり保護し、それ以外の情報は、住民にオープンにしてほしい。

セキュリティの強化

停電などのトラブルの時に危機管理がきちんとできているのか。

いたずらに機械に頼り過ぎは危険では？大災害時に機械がマヒ状態にあることが心配である。

20代女性 公務員

30代男性 会社員

40代男性 公務員

20代男性

30代女性 家事従事

60代男性 無職

c. 情報内容上の不安や問題の解消(4名)

市民(あるいは国民)のニーズに迅速に応えること。また全ての人に平等に開かれていることを望みます。そしてある一部の人、団体によって情報が操作されることのないよう望みます。

過剰情報流出による混乱防止。

30代女性 パート・アルバイト

不明

d. 人間的なふれあいや対面サービスの継続(28名)

パソコンは便利な点ばかり言われているが、不便な事もたくさんある。特に市のお仕事に関しては、対“人”ということを大切にしたい。

人間によるサービスも忘れずに、効率化、機械化に偏らないよう希望する。

情報は文章で1～2%、電話で5～6%、FACE TO FACEで100%伝わると言われています。そういう部分では今の「IT」が遠く及ばない部分、このような事をふまえて進んで欲しいと思います。

30代男性 公務員

40代男性 会社員

50代女性 家事従事

<p>合理化・簡素化には効果的であるが、人間関係が薄れ新たな社会問題が発生する。</p>	60代男性 団体役職員
<p>ITだけにたよりすぎると人と人の直接的の会話が少なくなり人間関係が心配です。</p>	50代女性 自営業
<p>行政が情報管理されることにより、個人が行政に管理されないように望む。</p>	40代女性 パート・アルバイト
e. 従来の方法との併用の必要性(2名)	
<p>ITを利用しているものが沢山いるならば情報伝達に利用するもよいが、紙に書いたものを市民に見せることをおろそかにしてはいけない。</p>	70代男性 無職
f. 行政への努力の要請(21名)	
<p>皆が興味を持つようなものであってほしい。</p>	10代男性 学生
<p>高齢者にも、わかりやすい初歩からの教室を開いてほしい。そして、参加したい。</p>	60代女性 無職
<p>国や自治体は税金を使って機器を備えることは簡単であり効率的であるかもしれないが、市民はそうは行かない。国で助成してくれればと思う。</p>	70代女性 無職
<p>1. 情報通信ネットワークの普及。 2. 行政手続きの負担軽減、スピード化。</p>	40代女性 会社員
<p>通信料金の値下げを企業に働きかける。通信速度を速くするために、社会基盤を整備する。(光ケーブルなど)</p>	30代女性 家事従事
<p>最近になって、声を立てはじめたけれど、何をやればいいのか具体的に提示できないのではないかと。方向、方針を示すべきではないかと思う。</p>	70代男性 会社員
<p>設備に投資する税金に見合うような市民サービスを提供して欲しい。</p>	60代男性 無職
g. コスト上の不安や問題点の解消(6名)	
<p>まず、通信費を下げないと利用しない。</p>	40代男性 団体役職員
<p>パソコンがもっと安くなればよい。</p>	30代女性 会社員
h. その他(9名)	
<p>もっと上の技術を期待している。</p>	10代男性 学生
<p>電気代の節約をできるようにする…限りある資源なのだから全国民が使用するとどうなるのか心配。</p>	30代女性 その他
<p>移動による交通量の減少に期待。</p>	50代男性 公務員
<p>ITにより積極的に行政の効率化を進めることは大変良いことであるが、情報機器を使いこなせない人達の訓練等に貴重な予算を費やすことには賛成できない。</p>	50代女性 家事従事

今後否応無しに電子社会が進み、予測できない環境が生まれると思う。
その時々適切な判断が必要。

60代男性 会社員

⑤全般的な否定・反対(32名)

期待しない。

20代男性 会社員

どのようなものを使おうが、それに携わる人間の意識が変わらない限り同じ。

30代女性 会社員

今行なっていることがどこまでIT化できて、その結果どのように良くなるのかなど、まだ机上のことなので期待はしない。

50代男性 自営業

電話やテレビのように、各家庭にあるとは限りません。私の家庭にも、まだありませんので、もう少し時間が必要だと思います。だから、期待しません。

50代女性 会社員

一市民として個人的に期待しない。その前にもっと力を入れなければならない問題がある。

行政、政府をあまり身近に感じないので、特に何も期待していない。

20代女性 学生

あまり期待していない。ITの活用だけが効率化への道ではない。

60代男性 無職

⑥わからない(25名)

よくわからない

10代男性 学生

今回初めて知った言葉なので考えがまとまりません。

50代女性 家事従事

時の流れが早すぎて分かりません。

50代女性 無職

本格的に動き出さないとわからない。

40代男性 自営業

興味がないので、よくわからない。

10代女性 学生

付2-2

「情報化社会」「IT」についての自由回答より（質問 7-5）

①積極的な期待（13名）

期待している。

10代男性 学生

早急に進めよ。

50代男性 団体役職員

不安をもっているような私ではありますが、期待も多いにあります。市民セミナーにも参加し、自身の知識も少しずつ向上させ時代の流れに乗りたいと思います。

40代女性 パート・アルバイト

一市民としてこれからの複雑な情報化時代に即応できるように日頃から多角的・専門的な知識を勉強しなければならないと思います。

70代男性 無職

②具体的な期待（17名）

上手に利用すれば、みんなが生活において便利になると思う。

30代女性 自営業

情報化社会が進むことで公務員の数を減らすことが出来る。税金を有効に活用することでより良いサービスを提供して欲しい。

20代男性 会社員

市内でインターネットを利用しているのは大概若年層であることから、Iターン・Uターンを増やしたいと考えているならば、若い人間が興味を持つようなホームページ、地域づくりを心がけて欲しい。

20代男性 自営業

情報は生きもの。古い情報ではなくライブな情報を。また、市民に対するサービスとともに、全国からアクセスしてくる人々に少しでもわが街に越に興味をもってもらいたい。

30代女性 パート・アルバイト

市民の声が直接に市政に繁栄されたら嬉しいです。

60代女性 家事従事

活用手段が最低限しかない一般庶民やパソコン・ワープロ・携帯電話などを活用しない方でも、これから利用したいと変換させるぐらいの意気込みを与えてほしい。また、それらを巧みに使ったアイデアでよい情報提供をお願いしたいと考えています。

20代男性 パート・アルバイト

経済状況も同時によくなるように期待します。

60代男性 無職

③具体的な留意事項の指摘・提言（246名）

a. 誰にでもわかりやすく平等であることが必要（66名）

老若男女 誰もがわかり易いものにしてほしい。

20代男性 会社員

使いこなせない人とできる人との格差を心配する。

50代女性 無職

簡単にまた、年齢に関係なく、ごく自然に使用出来ることが必要

50代男性 会社員

誰もが恩恵を受けられることを期待する

50代男性 公務員

“老人が置き去りになる社会”になるのでは、と不安になる。

60代男性 無職

老若男女全てに普及することが先決。高齢者もそれなりに恩恵を受けるべきであり、普及に努力して欲しい。能力のある老人を活用して欲しい。

70代男性 無職

ITの発達にともない、若い世代についていけないような淋しい気がする。どんどん社会にとり残されているようで・・・。

70代男性 無職

ITは楽しそうだけれど私は機械に弱いので難しく覚えられそうもありません。今のところは積極的に家にとり入れたいとは思いません。高価なものだそうですので、購入しても手におえなければ困りますので。私の年でも覚えられそうな最少機能で格安な機器でもあればと思います。

70代女性 家事従事

便利さは良いが、技術や情報が複雑になりすぎてついていけない。

60代女性 団体役職員

パソコンの使用方法を覚えるのは容易でないので、もっと簡単な機械を作る必要がある。

70代女性 無職

中学ではコンピュータを少し学習しましたが、高校では、全く扱わないので、これから仕事をするようになると思うと不安です。

10代女性 学生

便利な部分は理解できるが、自分がそれを利用できるかと考えるとむずかしい。

40代女性 公務員

b. 情報管理上の問題の解消(70名)

コンピュータの発達によって情報化は更に進むと思うが、個人のプライバシー保護が保障された形で進んで欲しい。

20代男性 公務員

市役所などの個人情報外部に漏れたり、悪用されたりすることのないように願いたい。

30代女性 会社員

必要な法整備と安心できる個人情報保護を前提に進めて欲しい。

30代男性 公務員

公にされてもいいものは応援しますが、税金の申告等、秘密にしておいてほしいものは考える点があります。

40代女性 無職

情報に対する不正アクセス防止対策が最も重要と考えます。情報セキュリティの早期対応を願っています。

40代女性 会社員

ITは万能ではない。どんな難しい鍵を作っても開けるものがでてくるように、悪用するものは必ずでる。ITは情報伝達の一手段にすぎない。

70代男性 無職

インターネットを使用した犯罪が多くなる傾向ですが、更に輪をかける事にならなければよいが・・・。

70代女性 無職

インターネットを利用した場合のウィルス対策を。(全世界的に必要なと思う)

30代男性 会社員

災害時の対応が心配。

60代男性 無職

セキュリティの問題(本人確認をどのようにするのか)※本人以外でも公開できる部分と本人だけに公開できる部分の明確化

40代女性 会社員

にせ情報、デマ情報、インチキ情報阻止をぜひともおねがいしたいです。

50代女性 家事従事

有害情報の整理が出来ないのではないかと。民間の無責任情報をカットする能力がない者が大勢いることを知る必要がある。	70代男性	その他
情報の洪水で選択技が多く、確実な情報かどうかの判断等に不安がある。また、器具の操作にうとい者は常にかやの外になってしまう。	50代女性	会社員
c. 行政の対応が必要(51名)		
インターネットを持ってない人が多いと思うので上越市で図書館など身近な場所に設置してほしい。	10代男性	学生
ITをとりいれて使っていく状態を具体的に、市民に理解できるような場を作って欲しい。	60代男性	会社員
パソコン購入に対して補助をして欲しい。市民のパソコン所有率をトップに。	20代男性	会社員
市でパソコンの貸し出し制度があればよいと思う。一人住まいの年寄りでも使えるようになるといい。	40代女性	会社員
障害者・老人の使用についてもっと援助して欲しい。	70代男性	無職
パソコンの使い方がよくわからない人に、初心者講座を公民館など自宅近くで開講して欲しい。(年配の方、女性等が行ける時間帯で)	30代女性	家事従事
50～60代にも分かるIT教室の機会が欲しい。	60代男性	会社員
ITといわれてもピンと来ない。何がITか情報をもっと出して欲しい。それが情報化社会の第一歩である。	20代男性	公務員
国民全体がどのようなITの方向性を考えればよいか政府の期待するイメージ像を知りたい。	30代男性	会社員
住民への理解・説明が必要	50代男性	家事従事
情報化社会、ITという言葉だけが一人歩きして、市民全体に十分理解されていないくらいがあるため、きめ細かな取り組みを望む。	50代男性	公務員
計画を立て、じっくり長期展望で普及に対応してほしい。	50代女性	会社員
アンケートも大切ですが、市内の情報化推進企業・団体・人ときちんと会って、市内で人々がどのように思い、どのような活動が行われているのか調査すべきと考えます。	40代女性	自営業
インフラ整備を国が強力に進めてほしい。	30代男性	会社員
インフラの整備が基本ではないか。いたずらにパソコンの普及、ホームページetcの増加よりも、むしろインフラに力を注ぐべきだと思う。	70代男性	自営業
インターネットに関するプロバイダー回線使用料金等がまだまだ高い。せめて米国並になるよう、行政サイドからも運動して欲しい。	30代男性	公務員
高速回線化と外国のように、24時間つながりっぱなしでも、月2～3000円程度の料金設定を望みます。	40代男性	公務員
通信料を安価にして欲しい。	50代男性	自営業

d. これまでの情報媒体も活用するべき(7名)

少数の人しか利用できないようなものであったり、「広報じょうえつ」のような、市民全員が利用できるものが無くなってはいけないと思う。

30代女性 自営業

ITを使って効率化は良いと思うが、パソコンばかりではなく、今までのやり方もあって良いと思う

40代女性

公的情報の最低条件は、普遍的な普及だと思われ、パソコンではなく、テレビが最も利用者側にとって利便性が良いと思います。

40代男性 会社員

e. 人間性喪失への不安(41名)

便利さと、人の対話の区別をしっかりとつけないと大変なことになりそう。(これからの子供達のために)

20代女性 パート・アルバイト

人が交流するの必要がなくなり老人の孤独化が進む。ますます冷たい社会になるのではないか。

50代女性 家事従事

非常に便利になる事は良いと思うが、やはり人と人とのつながり、対面して話すことがなくなり、心の通ったつきあいがなくなるのではないか

60代男性 公務員

人間社会で文明の機器が発達してしまうと人の顔が見えなくなり、そこには心がない。あくまで人と人とのつながりが社会の基本であると思う。

60代男性 無職

情報化社会は早く便利であり、より住みやすい環境を作ってくれると思うのだが、利用する人間が、機械的なものだけに、価値を高く思うことのないような配慮も同時にすべきと思う。

40代女性 パート・アルバイト

人間性が失われる恐れがあります。

50代男性 会社員

不便なことが多いから、近所の人や町内の人達が協力しようとする事につながるとは思いますが、便利すぎる社会は面白いでしょうか。

60代男性 無職

競争社会が更に激化し、混乱の社会情勢に発展する。人間らしいすみよい社会にはならないと思う。

60代男性 団体役職員

目まぐるしい程、早い情報により、人間らしさ、やさしく人を思いやる心が失われることになると思います。常に情報先取りしようとする事でストレスもたまってしまうし、月日が過ぎることを早く感じているのに、更に加速していくように思います。

40代男性 公務員

あまりにも早くて、便利で忙しく、いろんな情報があふれ過ぎている現実、何だかこわい気がします

50代女性 パート・アルバイト

f. その他(11名)

「情報」でなにをしたいのかという目的を見失っている。「IT受講カード」が見送られて本当によかった。

20代女性 会社員

ここ数年から情報化社会と言われていたが、私たちの上越はどのように変わったのか？情報化社会とか言って、活用できていないのでは・・・。

20代女性 会社員

効率が上がるなどメリットが多いが、「情報化」といって流されすぎるのもどうかと思う。メリット、デメリット双方考えるべき。

20代女性 公務員

ITは、手段の一つでしかないという認識をやってほしい。仕組みをつくったら成功だと思わないことが大切。

50代男性 会社員

急激なIT化は望まない。段階的に進めて欲しい。

50代男性 会社員

いろいろな技術が進歩することは素晴らしい事だと思います。その反面なくしていく部分もある事を忘れないでほしいと思います。

50代女性 自営業

将来IT化が進み、21世紀には、政府、自治体、行政機関と個人の間がどのようになるか、期待と不安が一体である。

70代男性 無職

世界の状況からして、行政の計画は良いと考えますが、現在の国家の赤字財政を配慮し進めて頂きたい(希望)。

70代男性 無職

④全般的な否定・反対(8名)

期待していない、機械に頼らない

30代女性 パート・アルバイト

効率化を求めることが、人間の幸せにはつながらない。人類が滅亡するような気がする。

40代男性 自営業

日常生活がこれ以上複雑になる事を、あまり望みません。

50代女性 家事従事

産業革命に匹敵する社会変革が起こると思うけれど、それで果たして人間が幸せになれるのか疑問を抱く。

50代女性 団体役職員

そんなに急がず、ストレスがたまらないよう、ゆっくり暮らしたい。

60代男性 無職

⑤わからない(15名)

言葉の意味は知っていても本当のことは分からないのもっと深く勉強してから。

60代女性 家事従事

テレビ(ニュース)等でITの言葉は知っているが、ついていけない。

70代女性 無職